

2023年度 公開講座

東南アジアの文字

東南アジアには、オーストロネシア、モン・クメール、チベット・ビルマ、タイ・カダイ、ミャオ・ヤオといった様々な系統に属する多数の言語が話されています。ひるがえって文字を見てみると、インド系の文字、漢字系の文字、アラビア系の文字、ラテン文字を用いた表記法など、言語系統とは無関係にこれまた様々な文字が使われています。本講座では、このうちインド系、漢字系、アラビア系の文字について、それらが使われている地域の言語や文化を専門に研究してきた研究者がそれぞれの切り口で語ります。

第1回

9|30 (土) 14:00
16:00

「インド系文字」

加藤 昌彦

(慶應義塾大学言語文化研究所)

第2回

10|7 (土) 14:00
16:00

「漢字系文字」

清水 政明

(大阪大学大学院人文学研究所)

第3回

10|14 (土) 14:00
16:00

「アラビア系文字」

坪井 祐司

(名城大学国際学部)

Zoomによる 受講料
ウェビナー 無料

事前申込制

- 慶應義塾大学言語文化研究所のウェブサイトからお申し込みください。
URL <http://www.icl.keio.ac.jp/koukaikouza/>
- 申込締切：各講座開催日3日前まで
- お申し込みいただいた方には、開催前日までに事務局より別途オンライン開催情報をお送りいたします。



申込QRコード

※最後の20分から30分を質問にお答えする時間に充てます。質問はZoomのQ&A機能を用いて、なるべく講義を終盤まで聞いてから書き込んでください。時間の都合ですべての質問にお答えできない場合もあることをご了承ください。

※ウェビナー終了後にアンケート画面が立ち上がる設定になっていますので、ぜひご記入ください。

※講義は講師間の情報交換のため録画します。

2023年9月30日

2023年度言語文化研究所公開講座「東南アジアの文字」

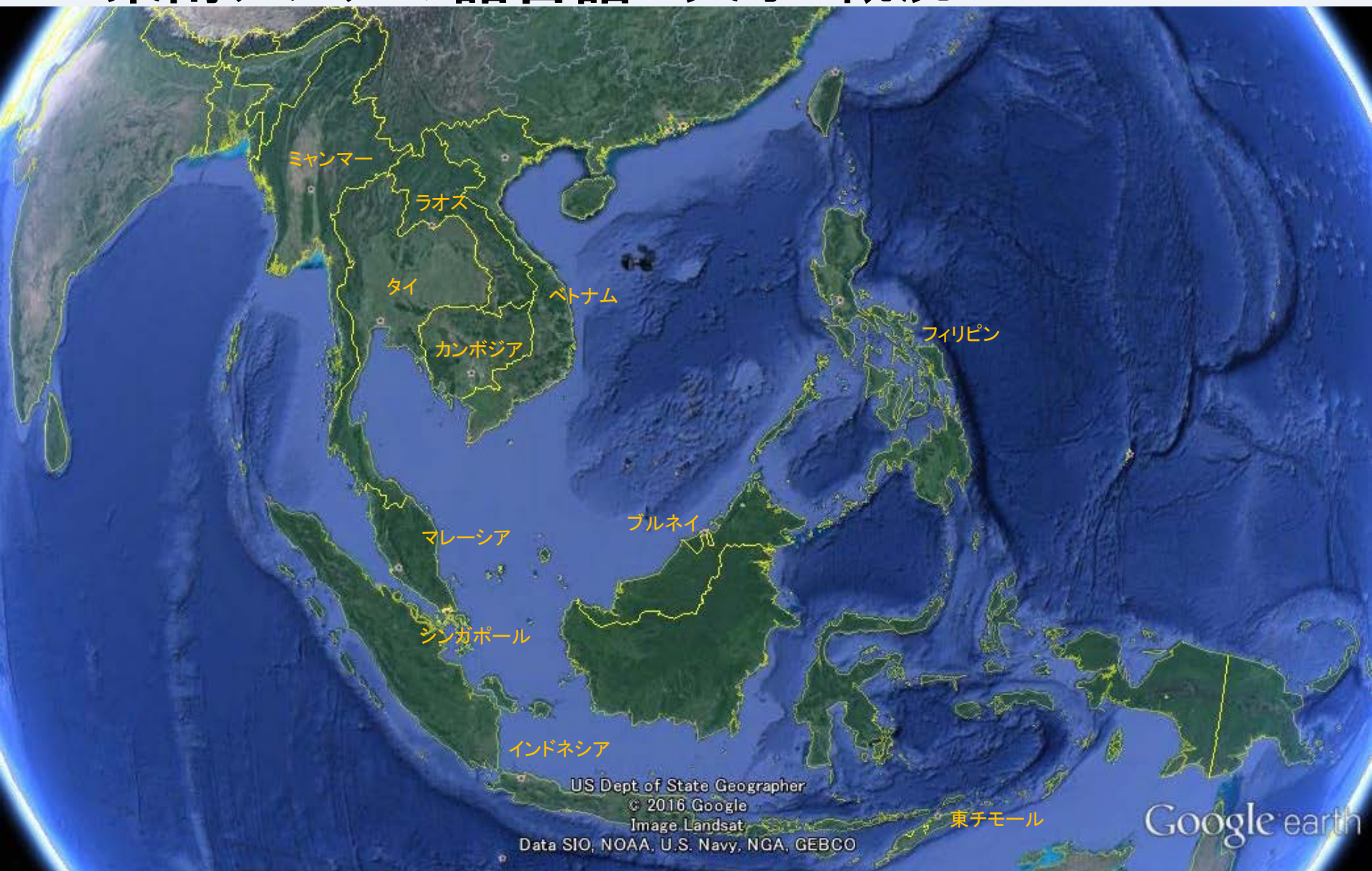
第1回 インド系文字

かとう あつひこ
加藤 昌彦

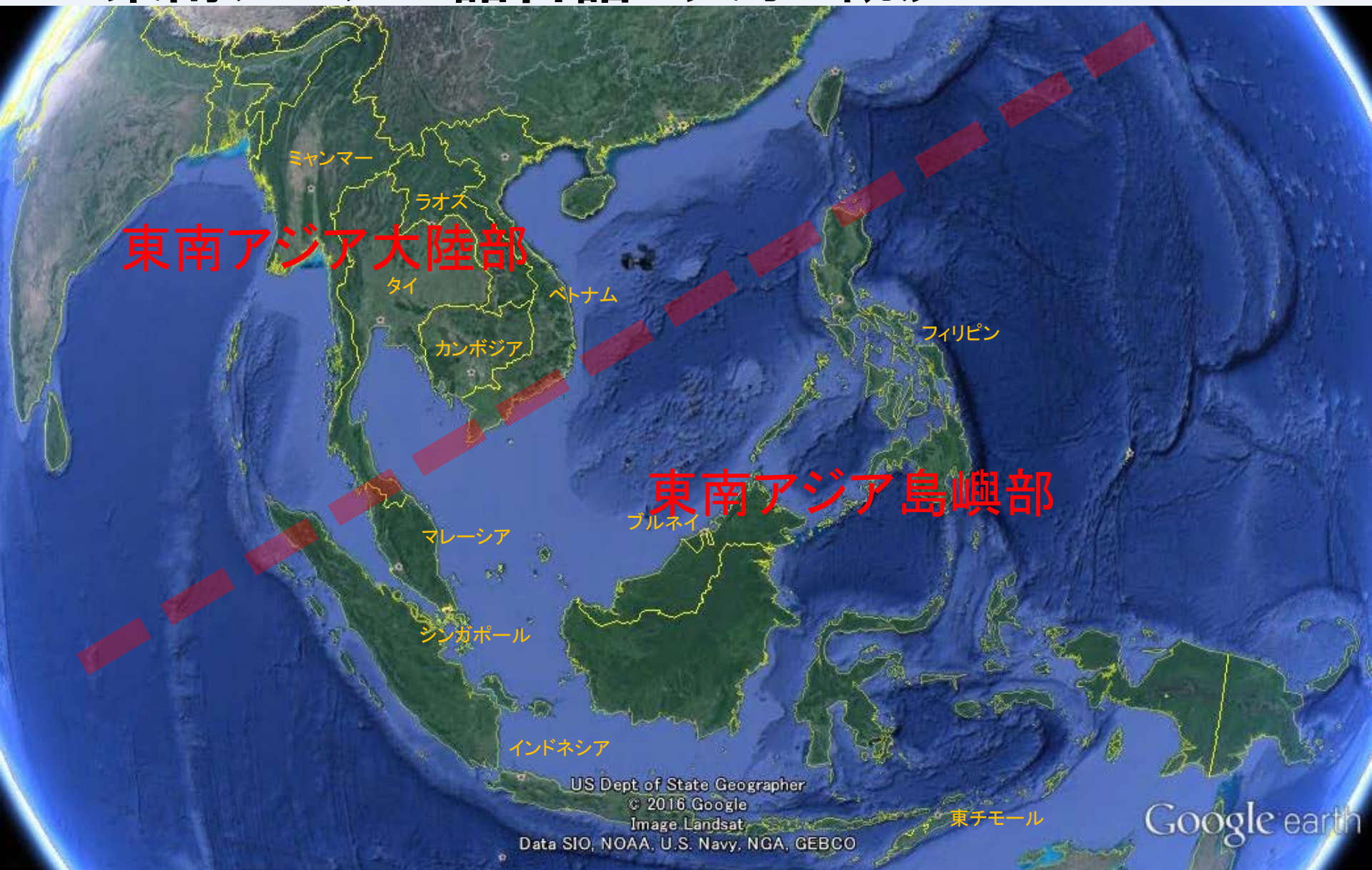
慶應義塾大学言語文化研究所



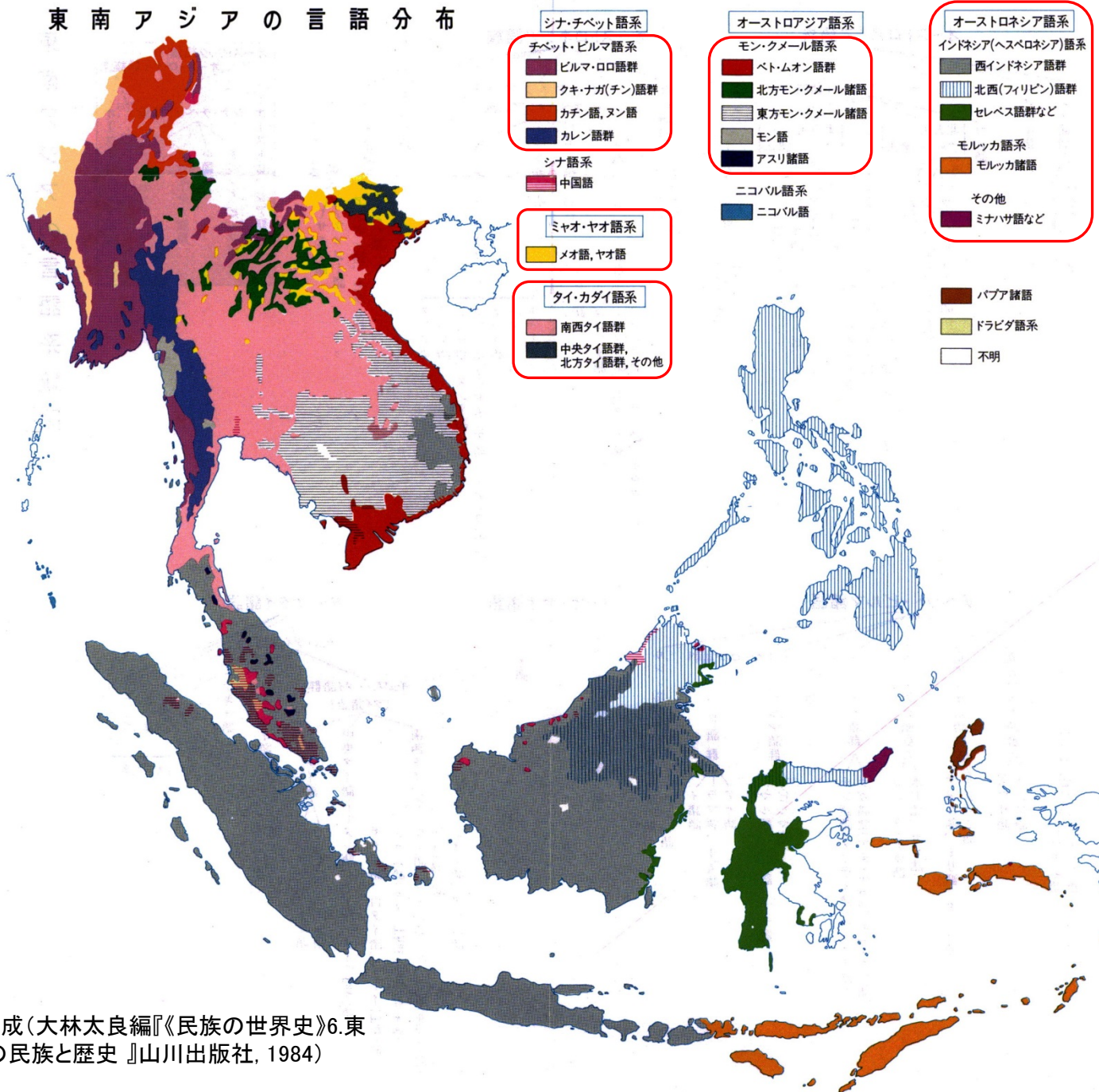
1. 東南アジアの諸言語と文字：概況



1. 東南アジアの諸言語と文字：概況



東南アジアの言語分布



三谷恭之作成(大林太良編『民族の世界史』6.東南アジアの民族と歴史』山川出版社, 1984)



Haspelmath, Martin & Dryer, Matthew & Gil, David & Comrie, Bernard (編) 2005. *The World Atlas of Language Structures*. Oxford University Press から引用(p. 570)。

Alphasyllabic

Alphabetic

現代東南アジア諸国の代表的な公用語と文字

フィリピン語(共通語化したタガログ語)-----ラテン文字 オーストロネシア語系

インドネシア語(ムラユ語の一種)-----ラテン文字 オーストロネシア語系

マレーシア語(ムラユ語の一種)-----ラテン文字 オーストロネシア語系

テトウン語-----ラテン文字 オーストロネシア語系

ベトナム語-----ラテン文字 モン・クメール語系

クメール語(カンボジア語)-----クメール文字 モン・クメール語系

ラオ語-----ラオ文字 タイ・カダイ語系

タイ語-----タイ文字 タイ・カダイ語系

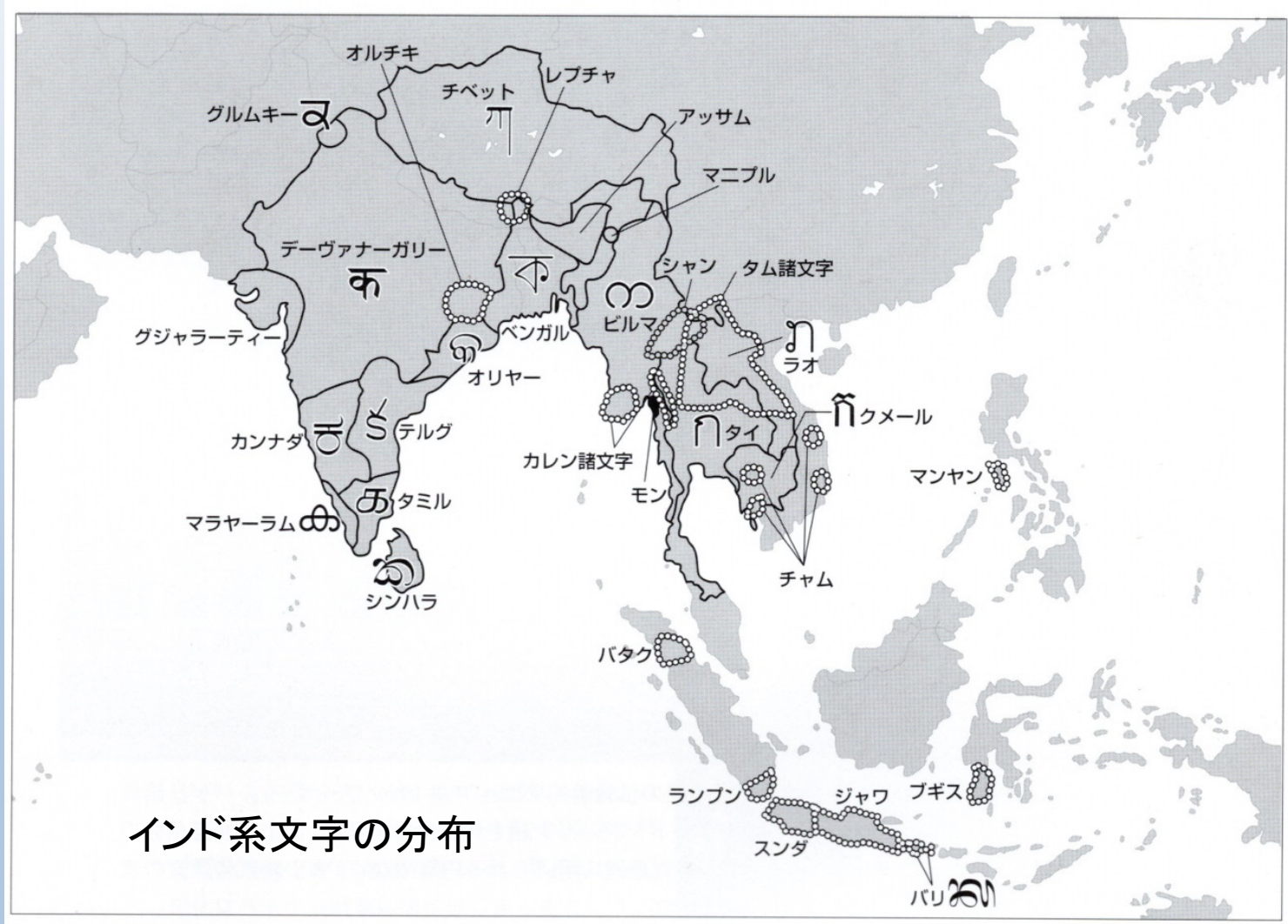
ビルマ語-----ビルマ文字 チベット・ビルマ語系

しかし、詳細に見ていくと、ムラユ語(マレー語。インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポールで使用)はかつてインド系文字で書かれたし、アラビア系のジャウィ文字でも書かれてきた。昔のフィリピンではタガログ語などがインド系文字で書かれた。ベトナム語は漢字系文字である字喃(チュノム)で書かれた。

今日は東南アジアのインド系文字について話します。

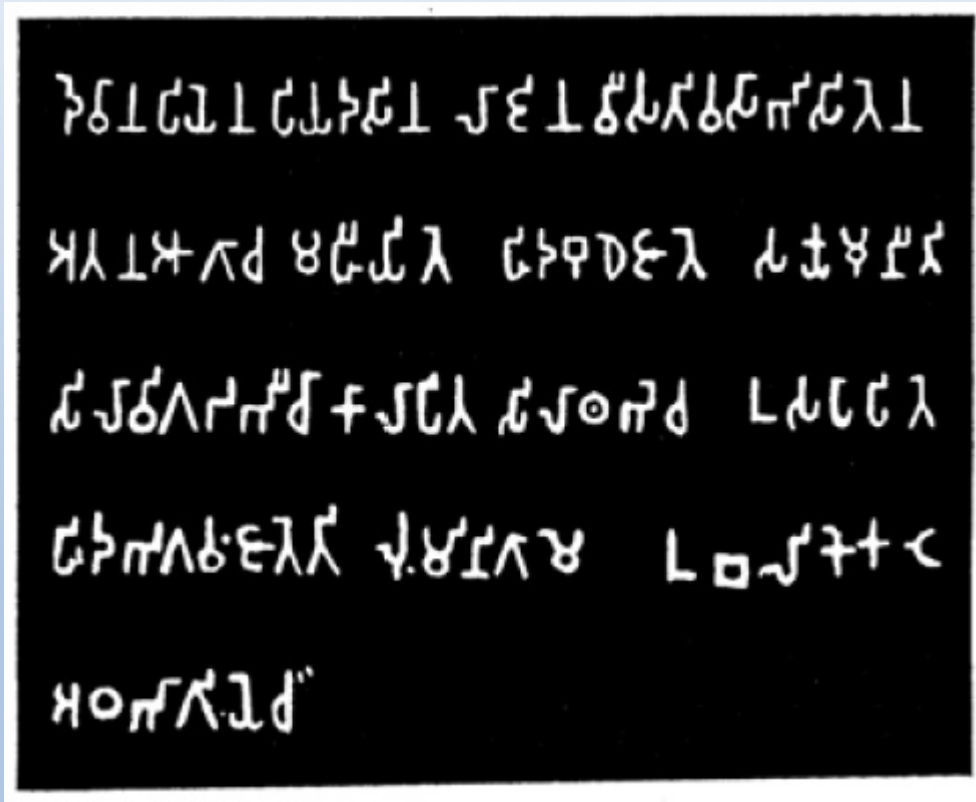


2. インド系文字とはどのようなものか 東南アジアを中心に

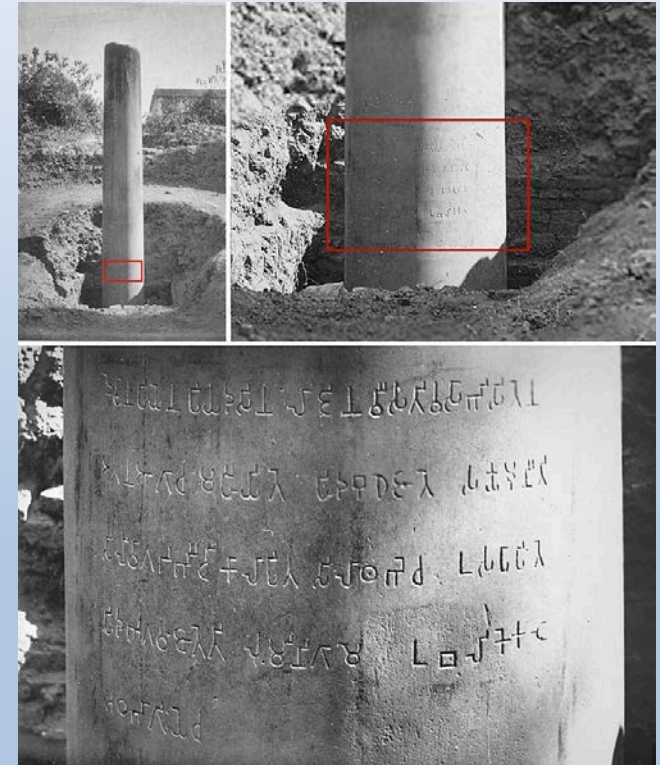


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)から引用

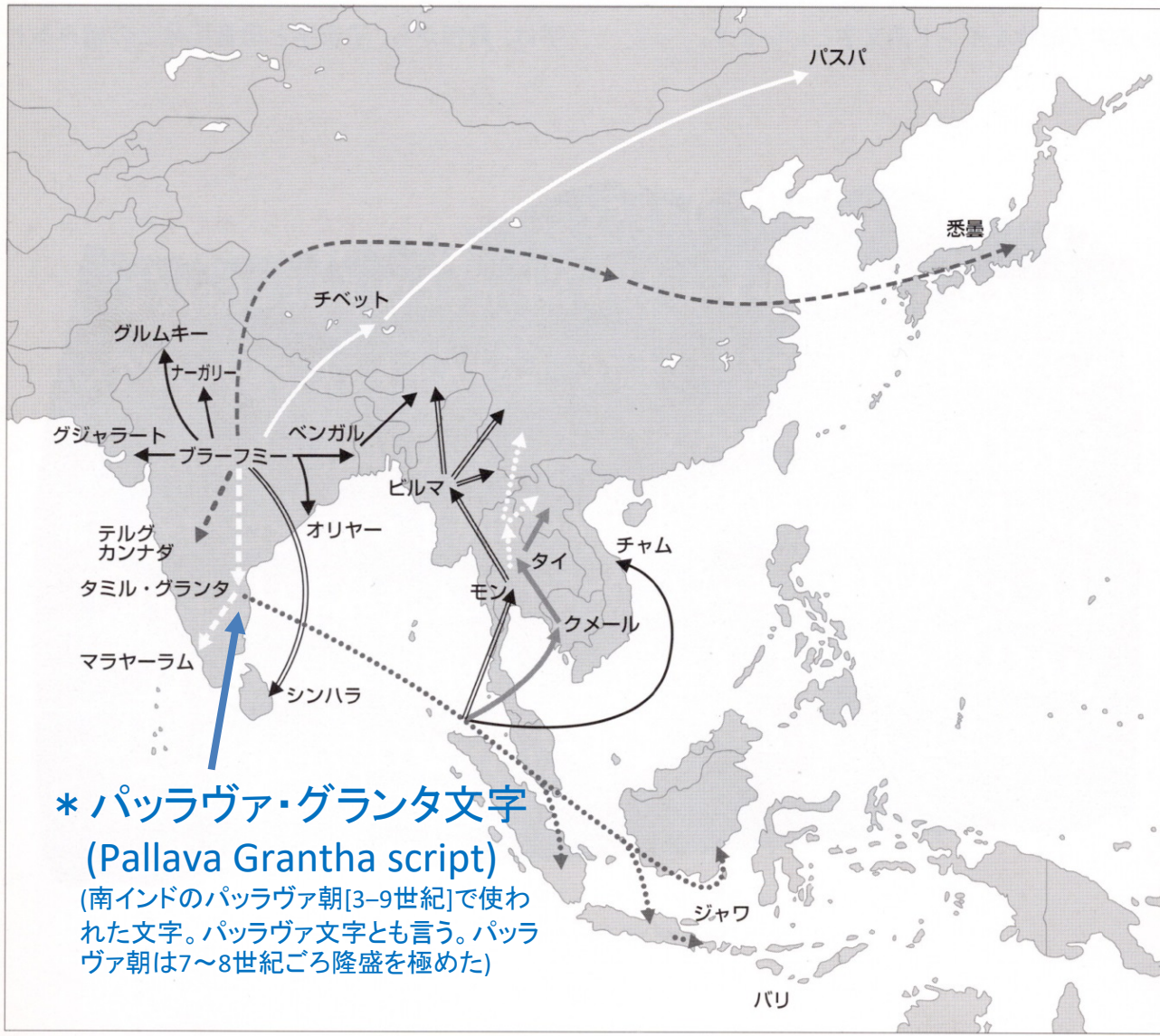
インド系文字はすべて2,300年ほど前のブラーフミー文字(Brahmi script)に起源を持つ。ブラーフミー文字は最も初期のものがアショーカ王の勅令によって作られた碑文群に残っている。(言語はプラークリット)



Amulyachandra Sen (1956) *Asoka's Edicts*. The Indian Publicity Society. から引用(p. 5)



Wikipedia: Lumbini pillar inscription (https://en.wikipedia.org/wiki/Lumbini_pillar_inscription) から引用



インド系文字の伝播

東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)『図説 アジア文字入門』(2005, p. 18)から引用



PALLAVA COPPERPLATE GRANT OF SIVASKANDAVARMAN.

vi^a.

पुत्रकवचकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
पुत्रकवचकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
पुत्रकवचकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
पुत्रकवचकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं

vi^b.

कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं

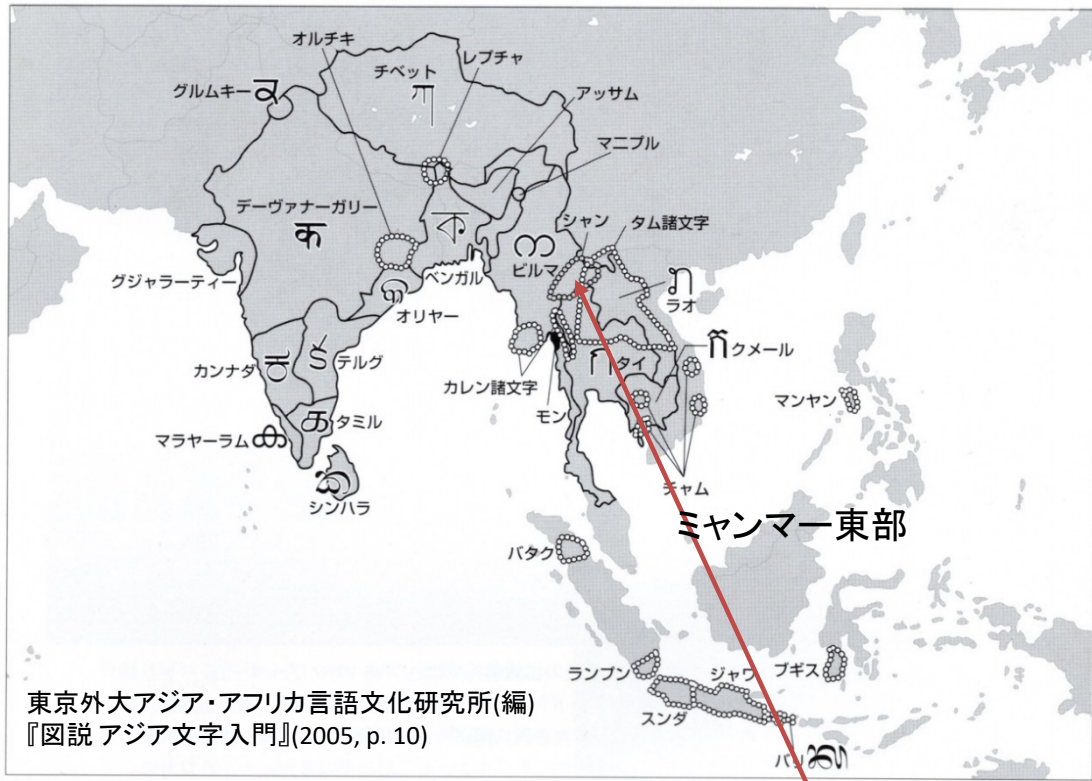
vii^a.

कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं
कस्यमुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं मुनिवपुत्रकृतं

銅板に刻まれたパッラヴァ朝時代の文字(3世紀頃)
Bühler, Georg (1892) A Prākrit grant of the Pallava
king Śivaskandavarman. *Epigraphia Indica*, vol. 1,
pp.2-10、6頁以降の図から引用

次に、東南アジアの代表的なインド系文字を見ていく。

Generated for alum@columbia.edu (Columbia University) on 2012-09-18 22:24 GMT / http://hdl.handle.net/2027/inu.39000002175854
Public Domain in the United States; Google-digitized / http://www.hathitrust.org/access_use#pd-us-google

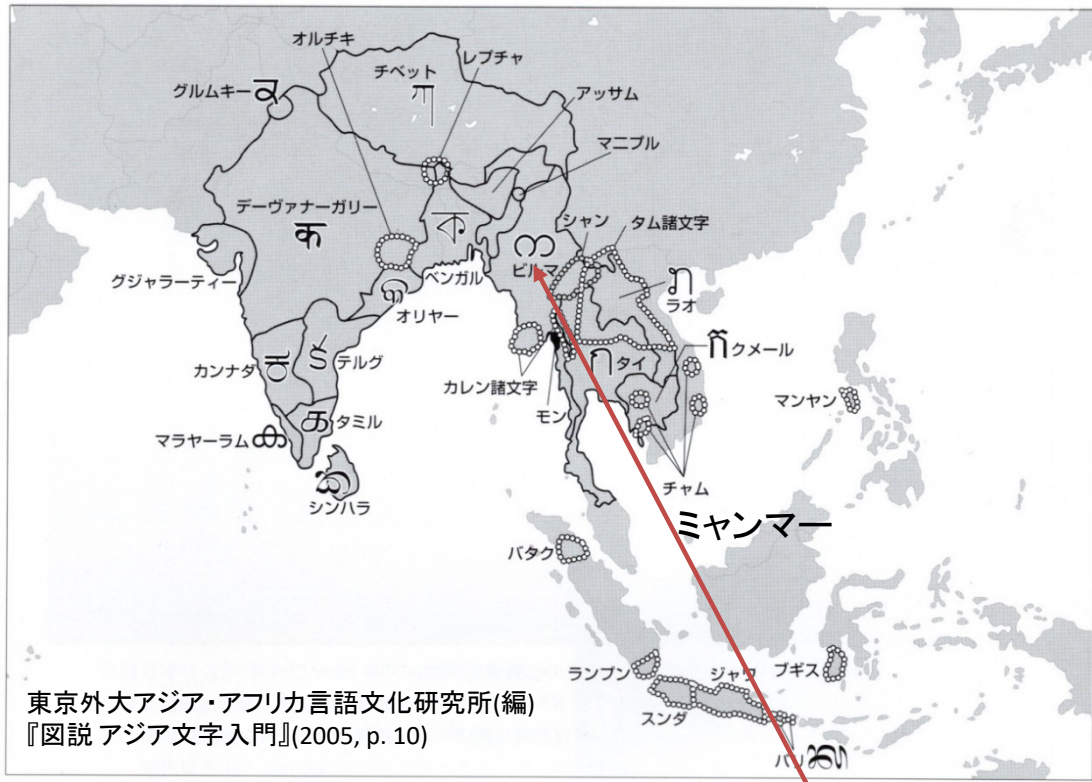


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

シャン文字 Shan script
(シャン語[タイ・カダイ系])

ဂုတ်ထူပူ။
 မိုဝ်ကံယုလဟော်ခေင်၊ ဂုခင်မိုဝ် တင်သိင် တင်လှင် ပေၤ ပိခင်ဝတ်
 လိုဝ်၊ တိပူတံမက်ကိင်ကိခင်ခေၣ်။ မိုဝ်ခေခင်ပူတင်သိင် တင်လှင်လံတက်
 သိင်ဂ္ဂုလေယင်ဂိုတ်ပူကံယုဝ်ခေၣ်။ ပူတုဝ်း၊ လတ်တေၣ်ပူတင် သိင်တင်
 လှင်လေဝ်ဝါ၊ ပူတင်လ'ခပ်ဂျိ။ ဂုခင်မိုဝ်တင်လ'ခေ'ပေၤ ခပ်ပိခင် ဝတ်
 ခေၣ်လိပိလိုဝ်၊ တက်ကိခင်ပူဂ်တင်သိင်တင်လှင်လေ ဂ်တက်သိင် ယဝ်။

『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「シャン文字」(藪司郎)から引用



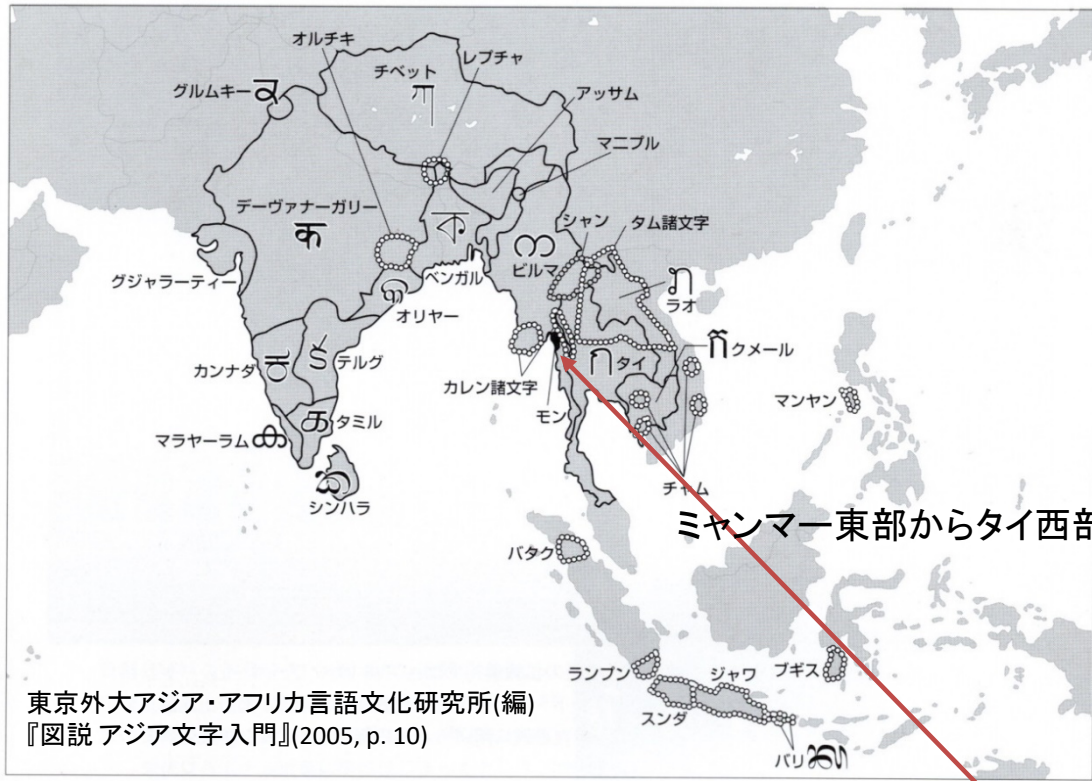
東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

ビルマ文字 Burmese script (ビルマ語[チベット・ビルマ系])

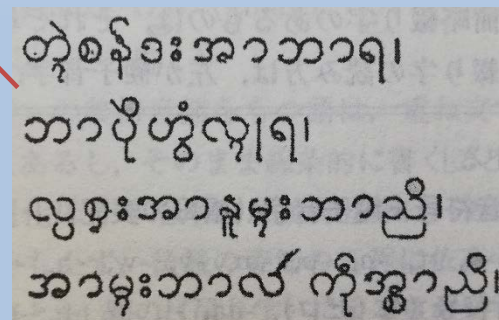
အမှောင်ခွင်း၍ အလင်းဆောင်အံ့

မြန်မာနိုင်ငံ ဘာသာပြန်စာပေအသင်းသည် တိုင်းရင်းသား လူတန်းစား အသီးအသီးတို့အား အသိပညာအလင်းကို ပေးရန် ဖွဲ့စည်းတည်ထောင်သော အဖွဲ့အစည်းဖြစ်သည်။ ဘာသာပြန်စာပေအသင်းဟု ဆိုသော်လည်း ဘာသာပြန်ဆိုခြင်းသည် အသင်း၏ ထုပ်ငန်း အစိတ်အပိုင်းတခုမျှသာ ဖြစ်သည်။ အခြားထုပ်ငန်းများမှာ မြန်မာ့ယဉ်ကျေးမှု အရပ်ရပ်တို့ကို အားပေးခြင်းမြှောက်ခြင်း၊ စာအုပ်စာတမ်းများ ပုံနှိပ်ထုတ်ဝေခြင်း၊ စာရေးကရိယာနှင့် စာအုပ်များ ရောင်းချခြင်း စသည်တို့ဖြစ်သည်။ အထူးသဖြင့် ၁၄ တွဲရှိ သရုပ်ပြ မြန်မာ့စွယ်စုံကျမ်းကို ပြုစုထုတ်ဝေခြင်းအားဖြင့် အာရှအရွှေ့ပိုင်းတွင် မြန်မာနိုင်ငံသည် တိုင်းရင်းဘာသာဖြင့် စွယ်စုံကျမ်းထုတ်ဝေရေး၌ ရွှေပြေးလျက် ရှိပေသည်။

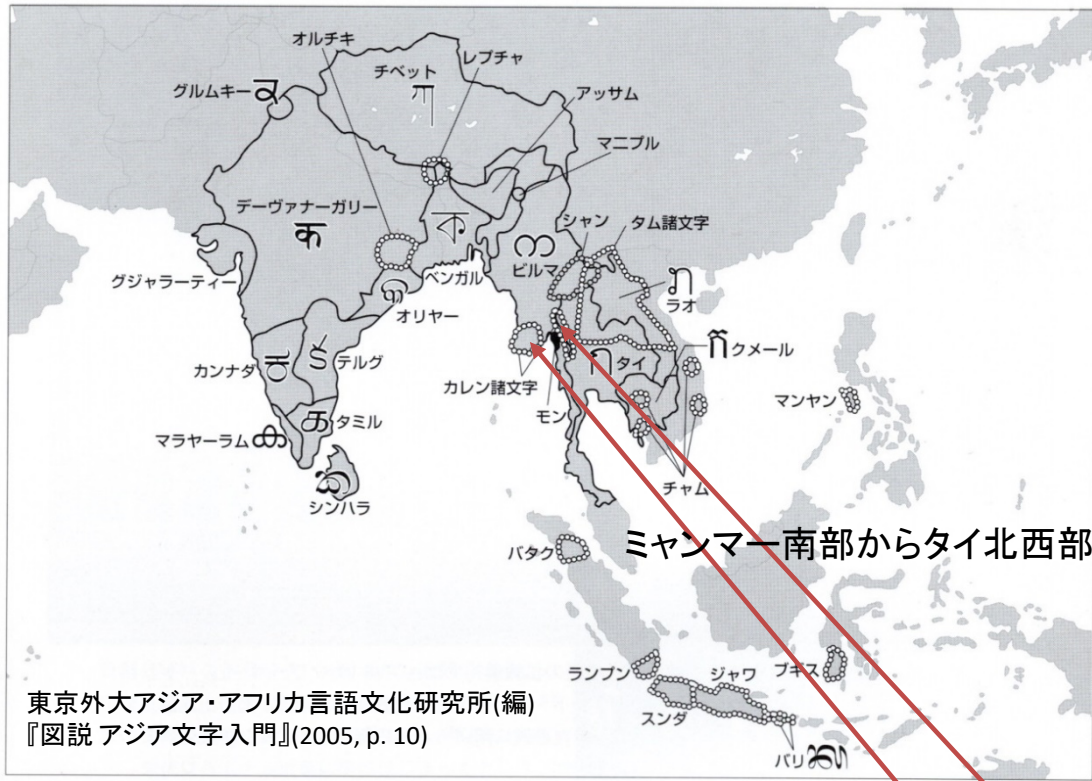
『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「ビルマ文字」(藪司郎)から引用



モン文字 Mon script
(モン語[モン・クメール系])

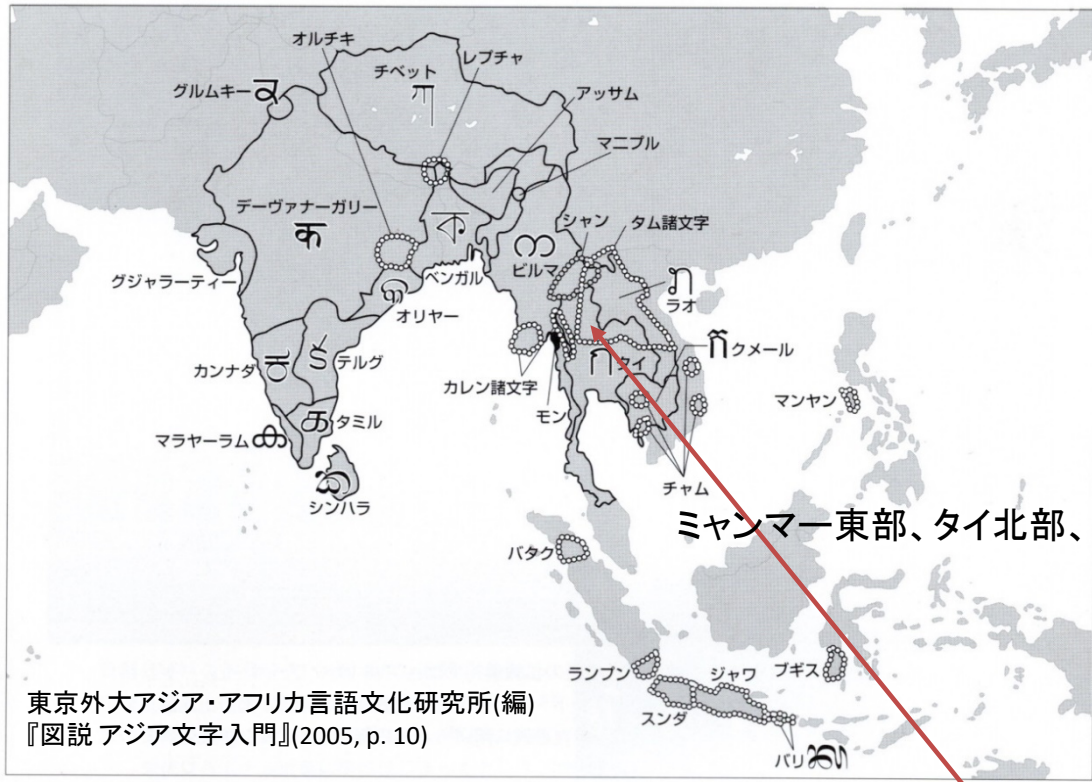


『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「モン文字」(藪司郎)から引用



カレン諸文字 Karen scripts
(カレン語とその近縁言語
[チベット・ビルマ系])

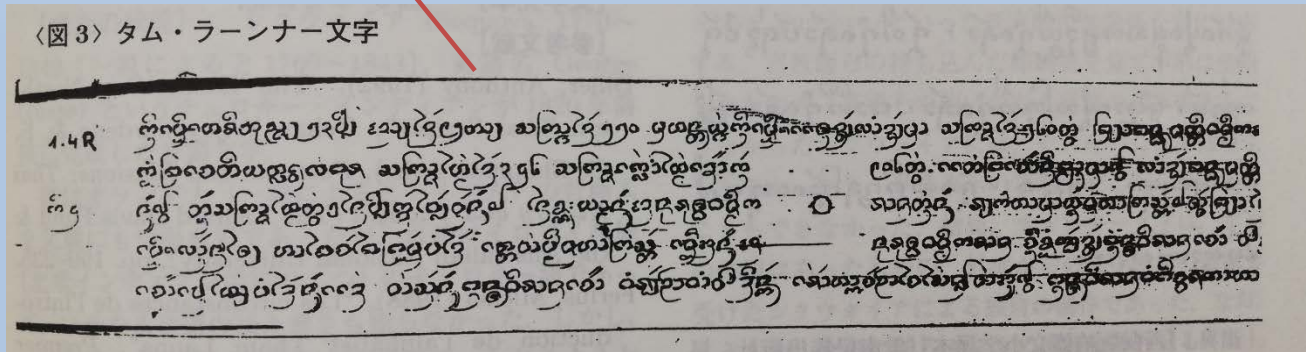
実にさまざま
(後で見るので省略します)



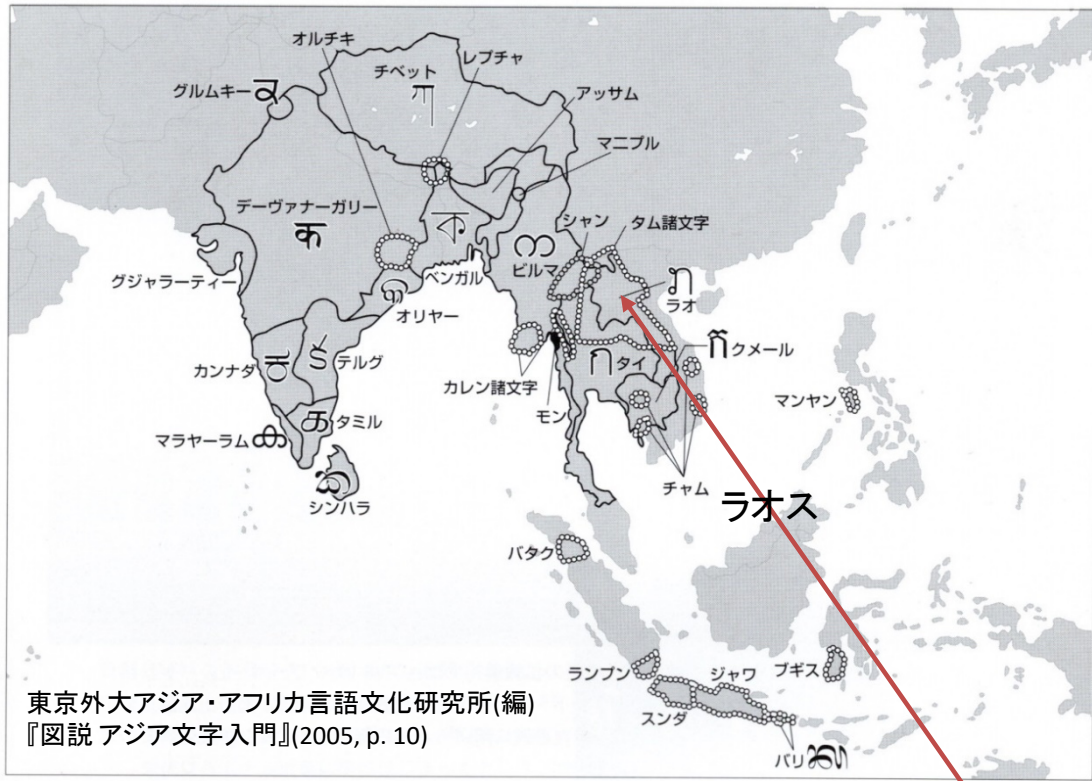
東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

ミャンマー東部、タイ北部、ラオス、雲南省南部

タム諸文字 Tham scripts
(北タイ語、タイ・ルー語、チェントンのシャン語など[タイ・カダイ系])



『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「タム文字」(飯島明子)から引用

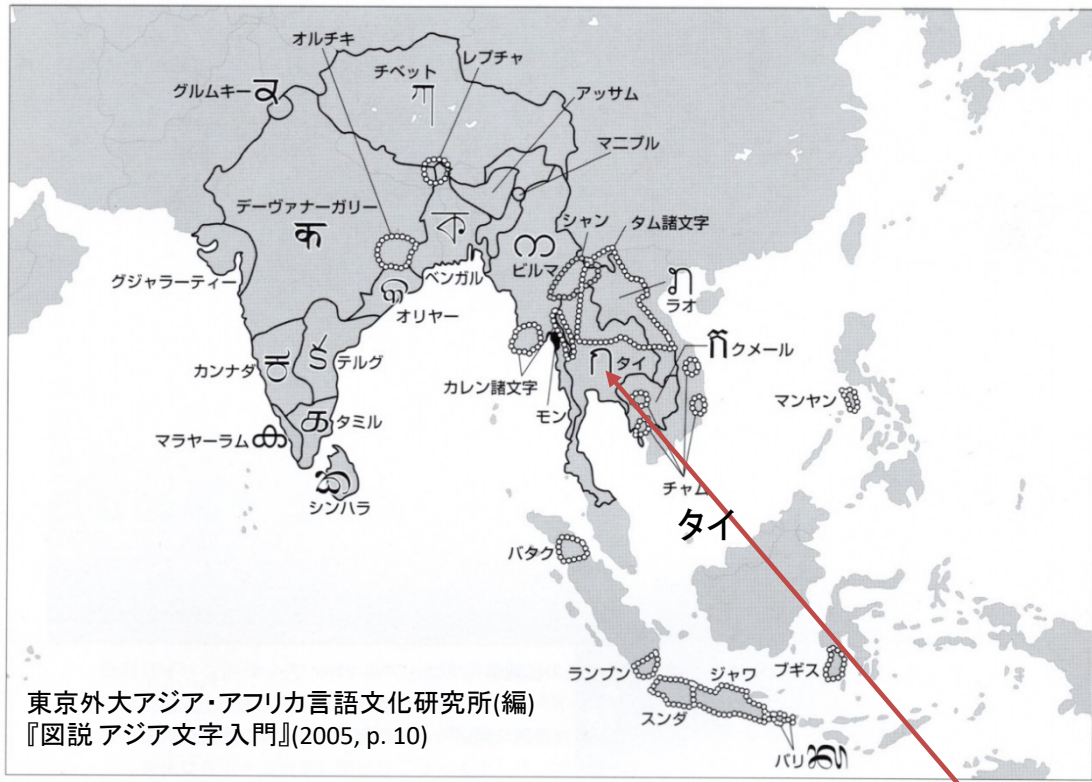


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

ラオ文字 Lao script
(ラオ語[タイ・カダイ系])

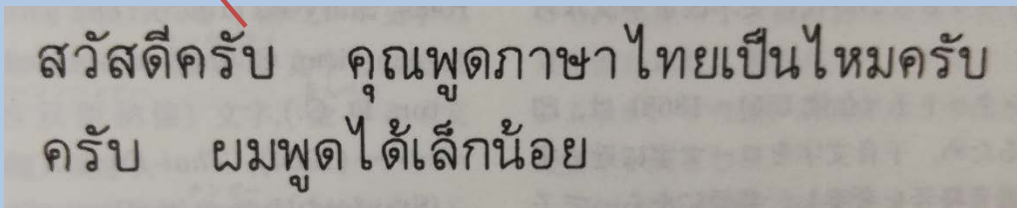
ເຄື່ອງນຸ່ງແລະເຄື່ອງຮຽນຕ່າງໆ ຂອງພວກຂ້ອຍ
ສ່ວນຫຼາຍແມ່ນພໍ່ແມ່ ຊື່ໃຫ້ໃໝ່.

『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「ラオ文字」(鈴木玲子)から引用

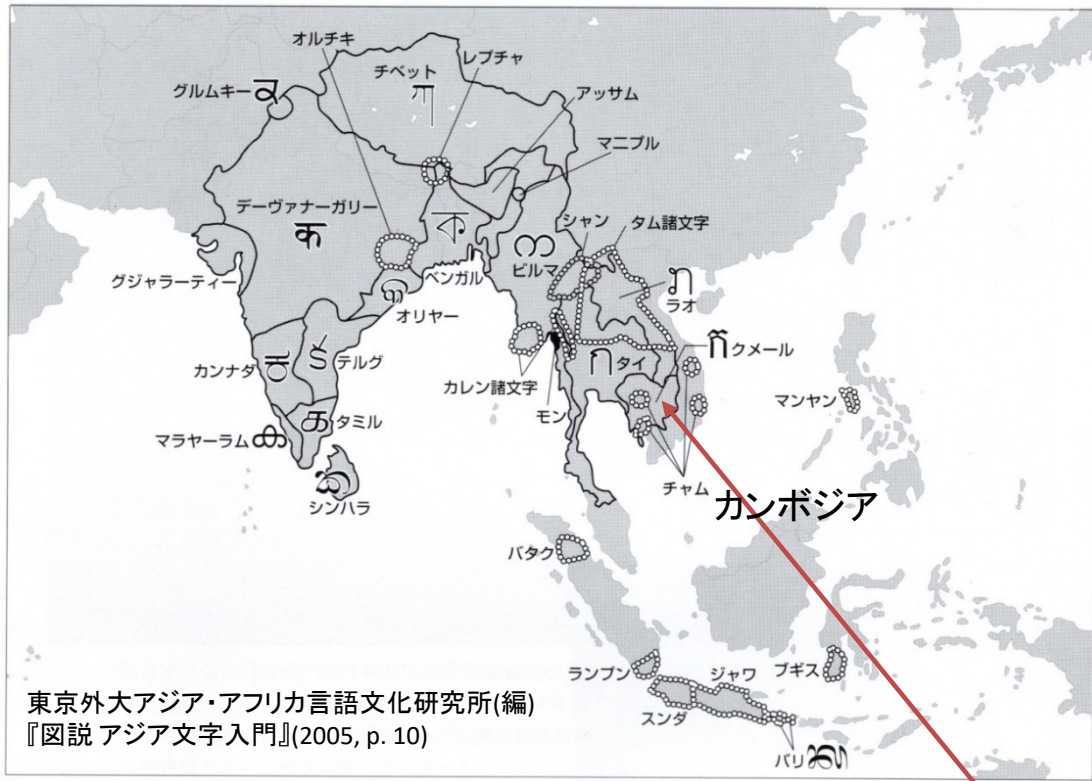


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

タイ文字 Thai script (タイ語[タイ・カダイ系])

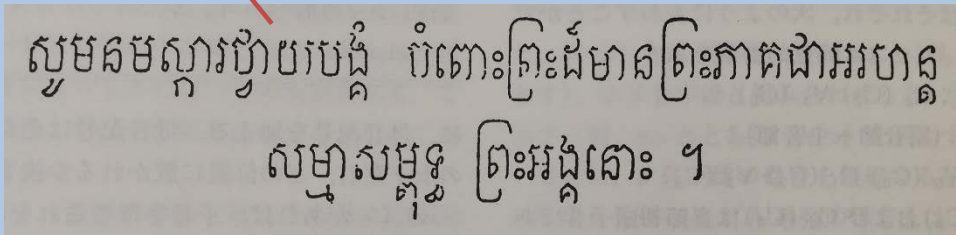


『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「タイ文字」(佐藤博史)から引用

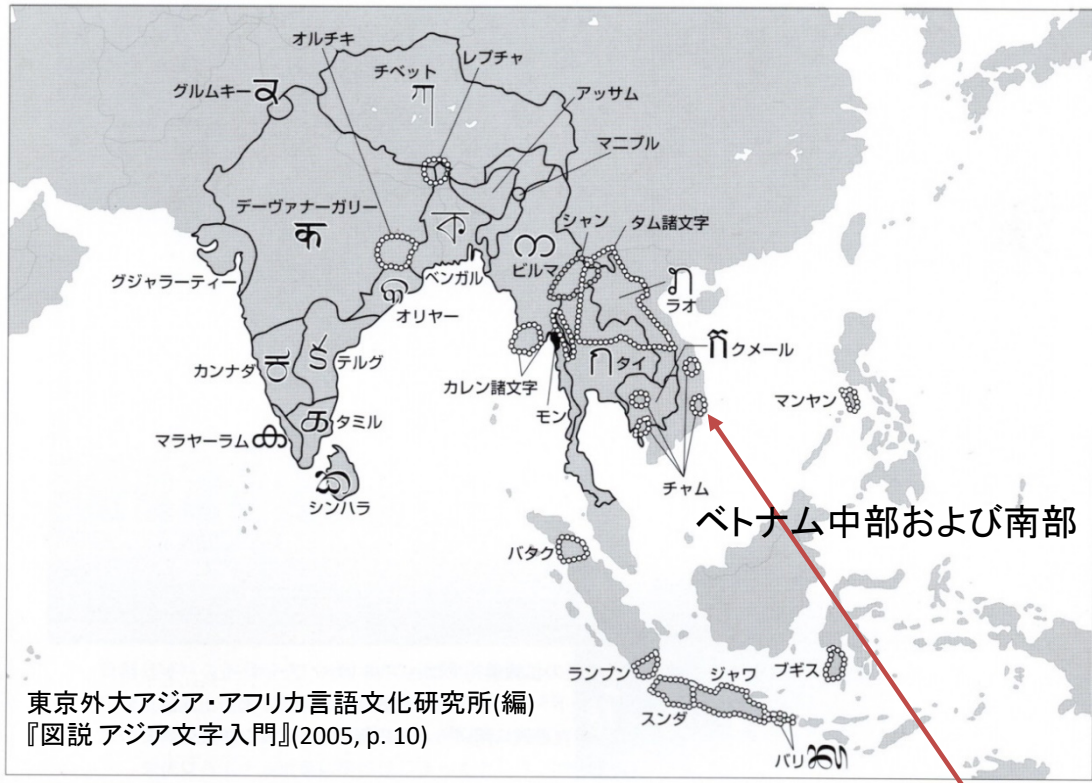


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

クメール文字 Khmer script
(クメール語[モン・クメール系])



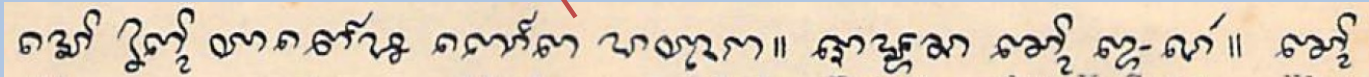
『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「クメール文字」(峰岸真琴)から引用



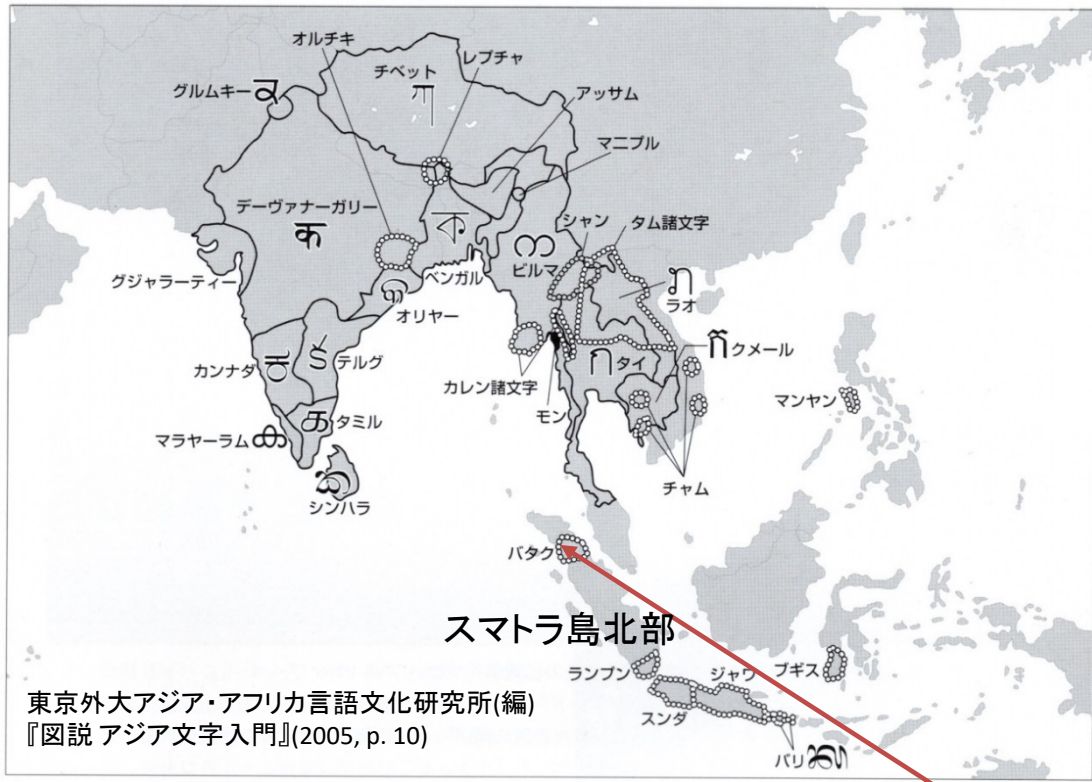
東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

ベトナム中部および南部

チャム文字 Cham script
(チャム語[オーストロネシア系])

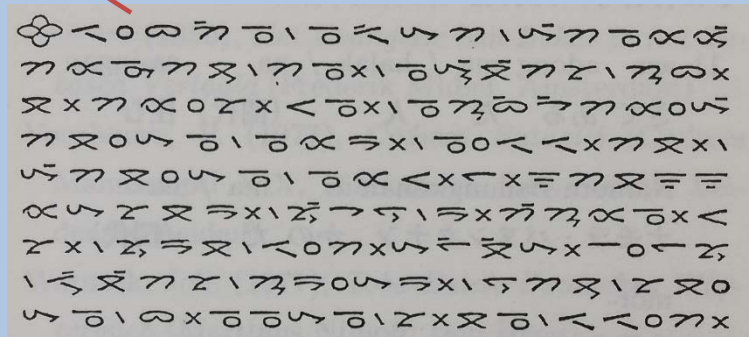


川本邦衛旧蔵チャム語学習資料から引用

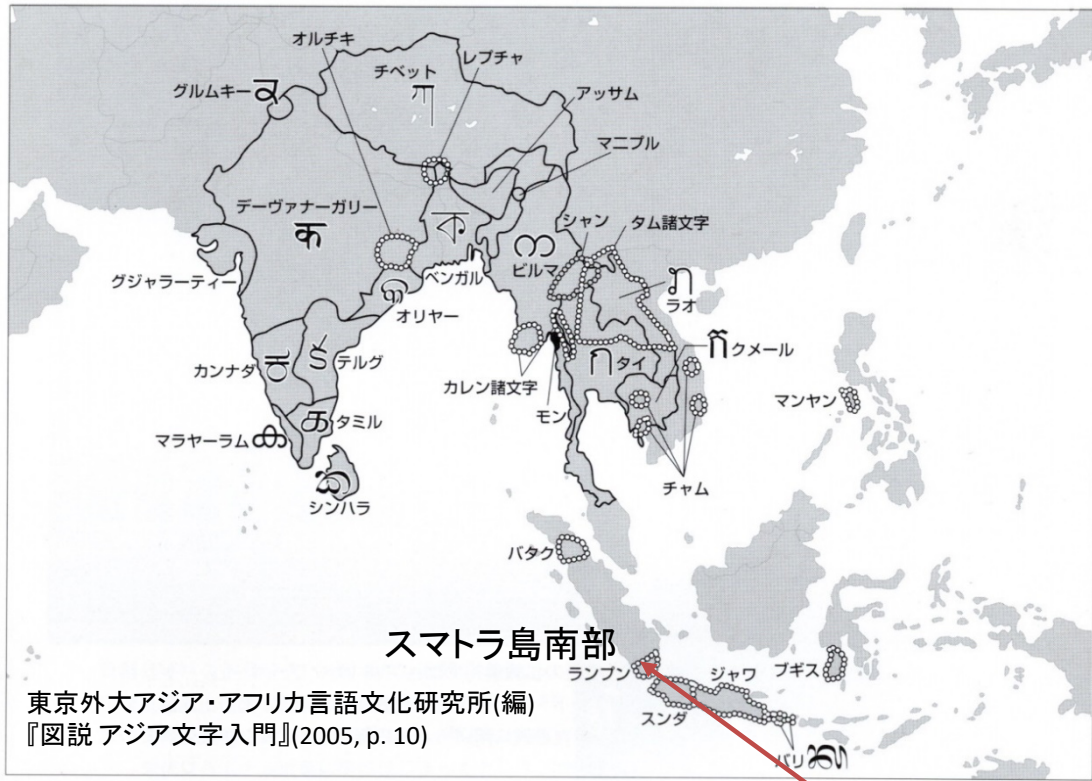


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

バタク文字 Batak script (バタク語[オーストロネシア系])

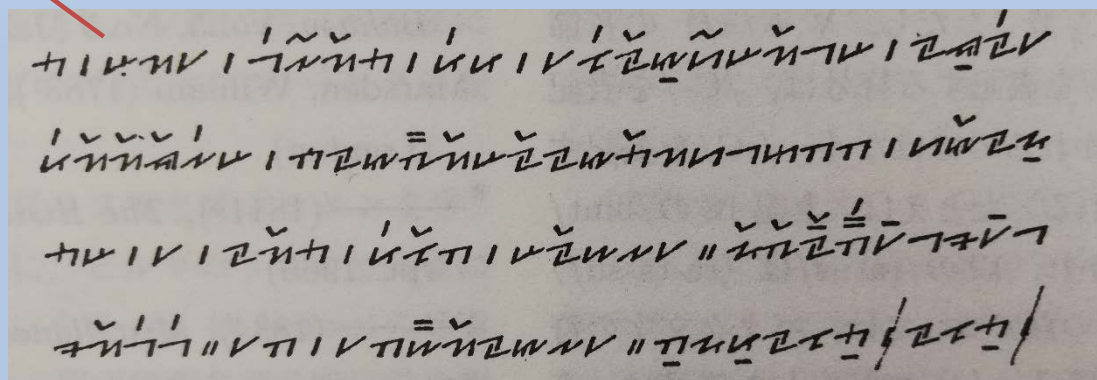


『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「バタク文字」
(柴田紀男)から引用。トバ・バタク語を書いたもの。

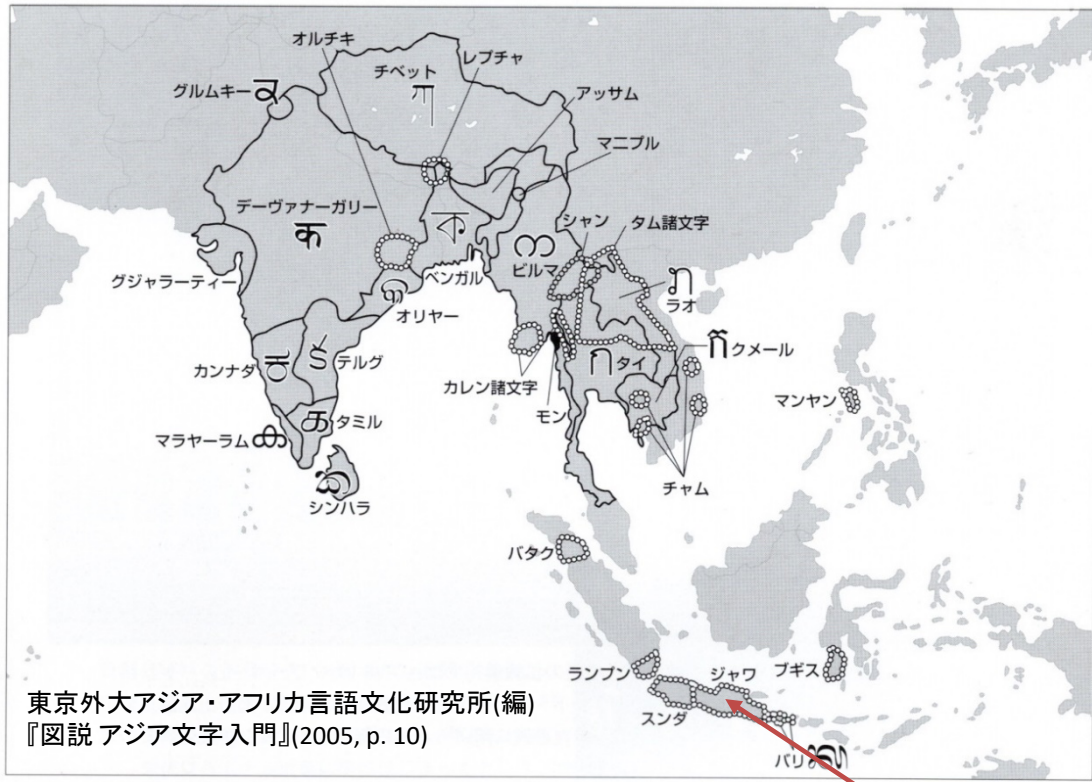


東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

ランポン文字 Lampung script (ランポン語[オーストロネシア系])



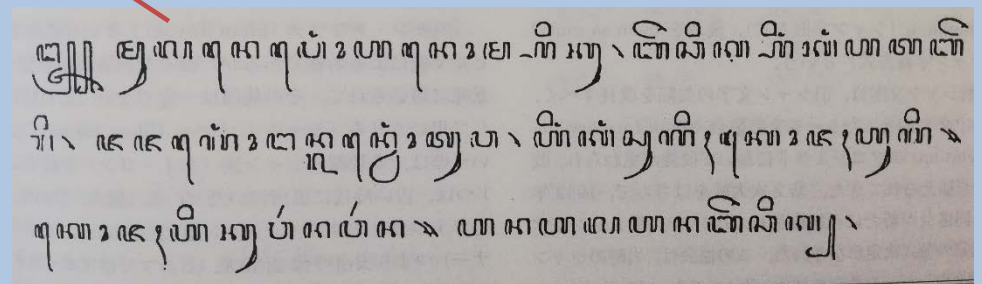
『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「ランポン文字」(柴田紀男)から引用



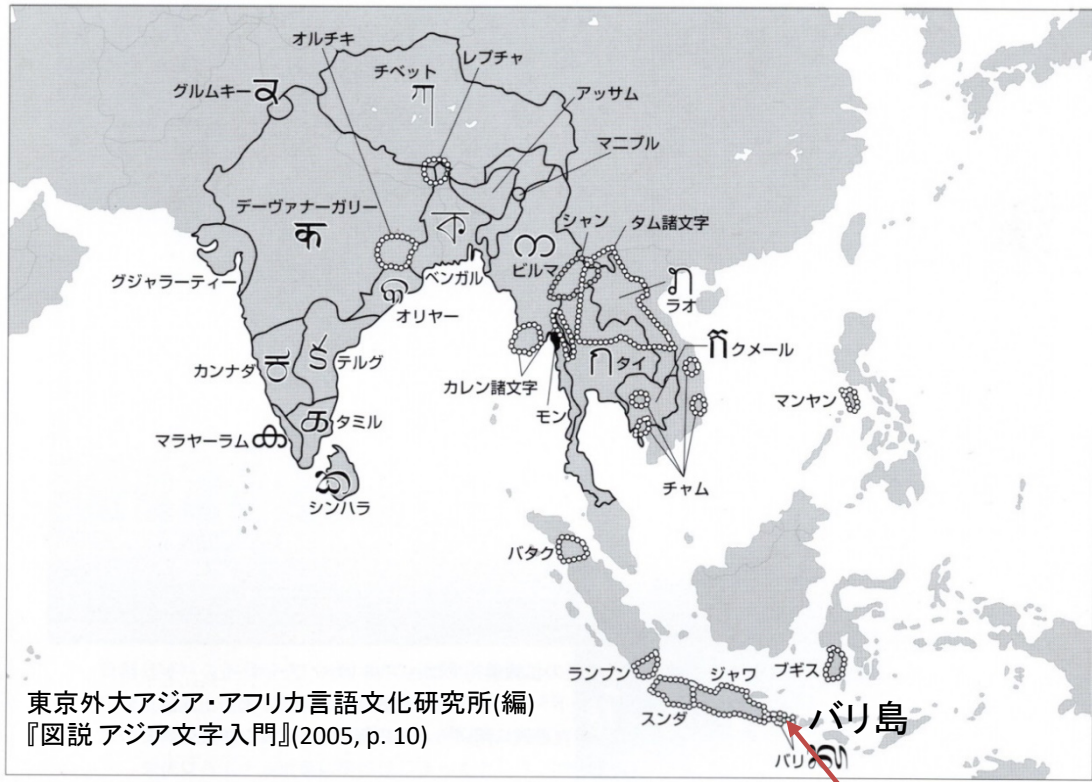
東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

ジャワ文字 Javanese script (ジャワ語[オーストロネシア系])

ジャワ島中部および東部

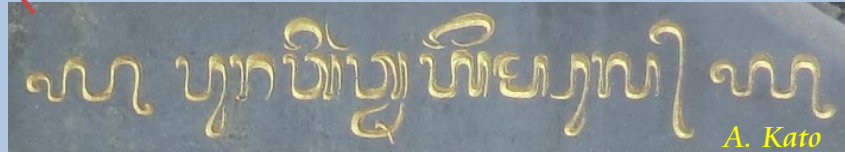


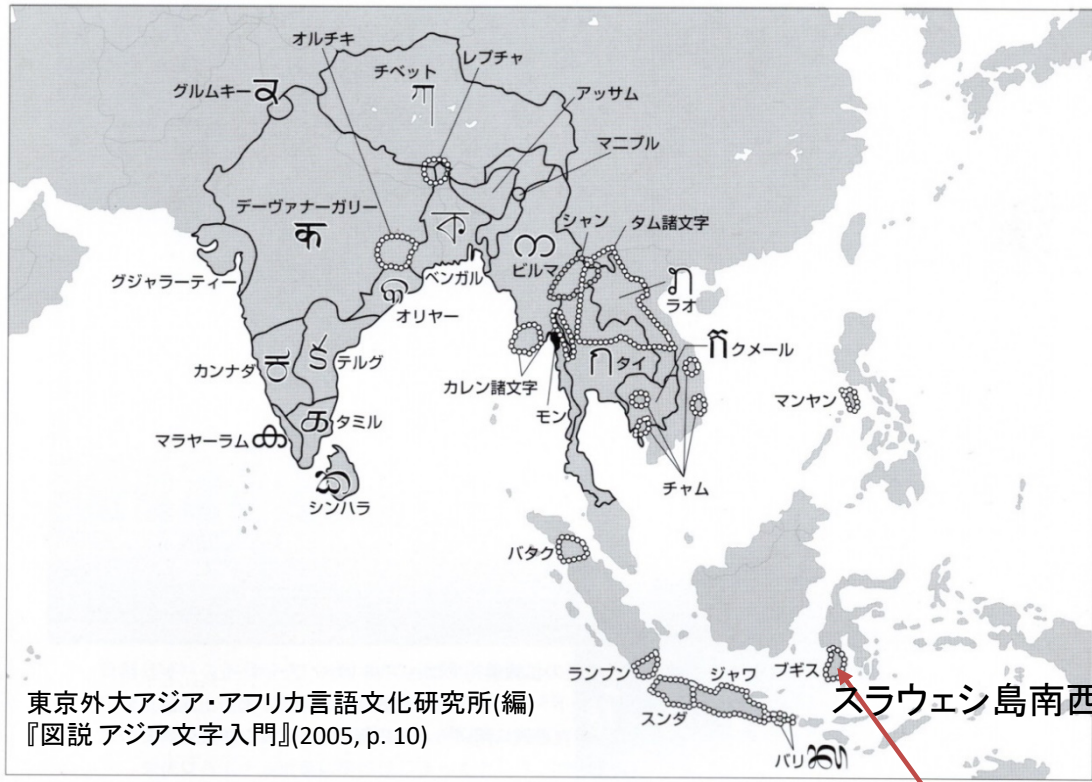
『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「ジャワ文字」(崎山理)から引用



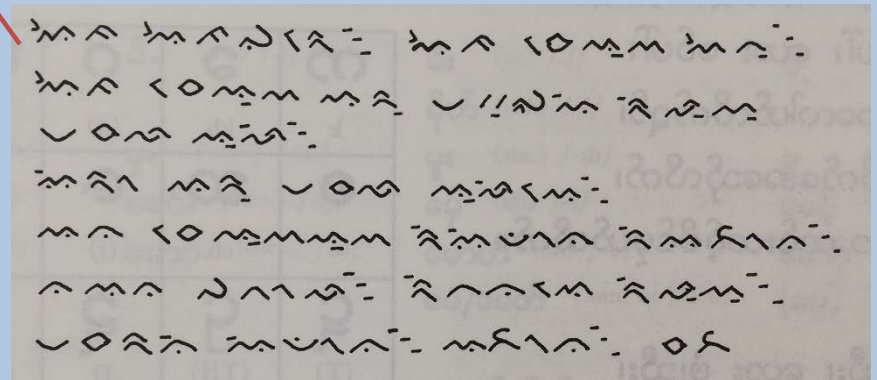
東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

バリ文字 Balinese script
(バリ語 [オーストロネシア系])

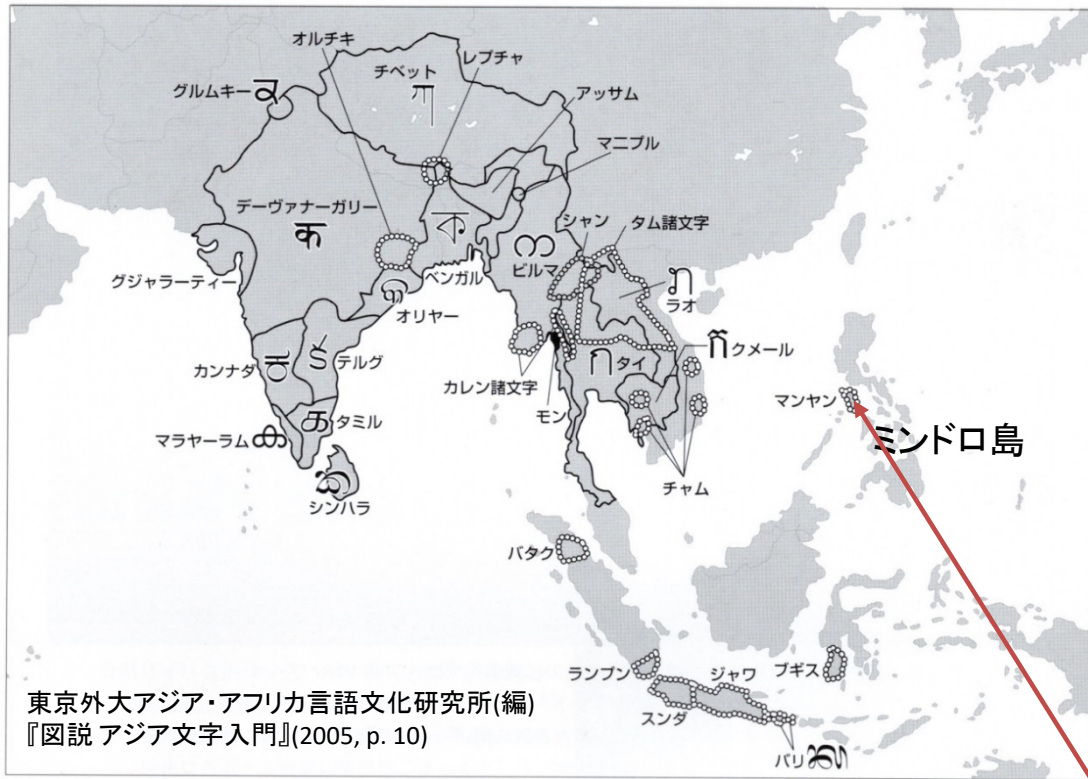




ブギス文字(ロンタラ文字)
Bugis script (Lontara script)
(ブギス語[オーストロネシア系])



『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「ブギス文字」(柴田紀男)から引用



東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, p. 10)

マンヤン文字

Mangyan script

(ブヒッド語、ハヌノオ語
[オーストロネシア系])

Handwritten Mangyan script examples:

Transliteration with inter-linear translation:

kág manúk si bidlawán |
my bird the bidlawán (a small
yellow bird)

nagsírung sa paspásan |
took-cover in drainage-ditch

magdarápin yí ?urán ||
to-pray-(for) already rain

Free translation:

My little bidlawán bird
Stopped in the shade
To pray for rain.

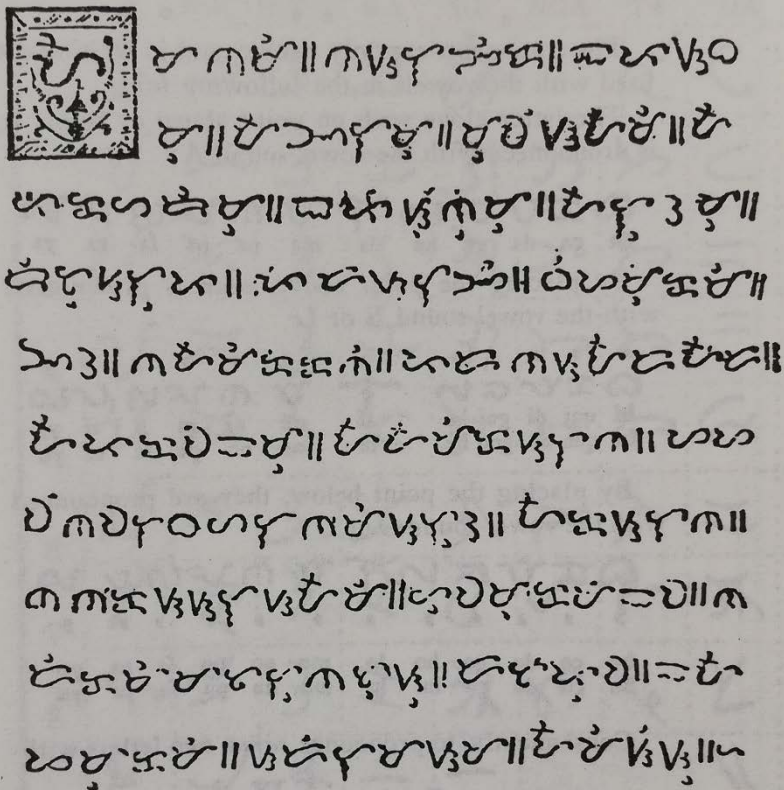
(参照)

Handwritten Mangyan script examples:

The Hanunoo Script
<https://iloko.tripod.com/Hanunoo.html>
から引用。これはハヌノオ語を話す人々が使う変種。

現在はラテン文字で書かれるフィリピン語[オーストロネシア系]やマレーシア語・インドネシア語[オーストロネシア系]も昔はインド系文字で書かれていたことがあった。

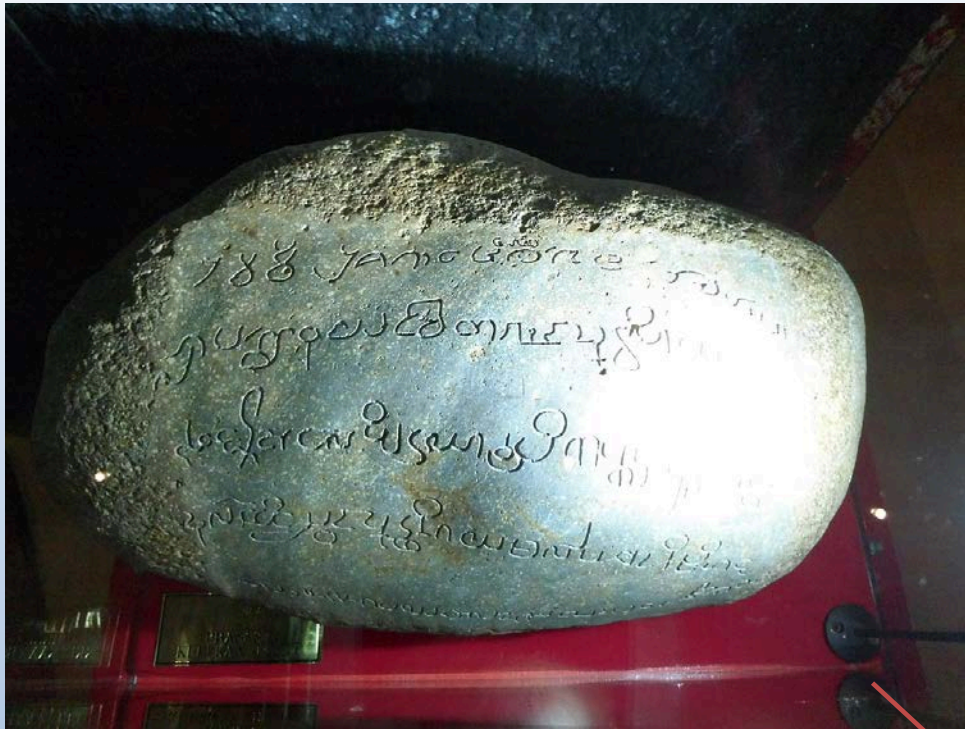
〈図 3〉 タガログ古代文字によるタガログ語訳「主の祈り」



『言語学大辞典 別巻世界文字辞典』「フィリピンの文字」(山田幸宏)から引用

16世紀初頭にマゼランがフィリピンに到着する前、フィリピンではタガログ語やイロカノ語、ビコル語、セブアノ語等々、様々な言語がインド系文字バイバイン(Baybayin)で書かれた。その生き残りが先ほどのマンヤン文字である。

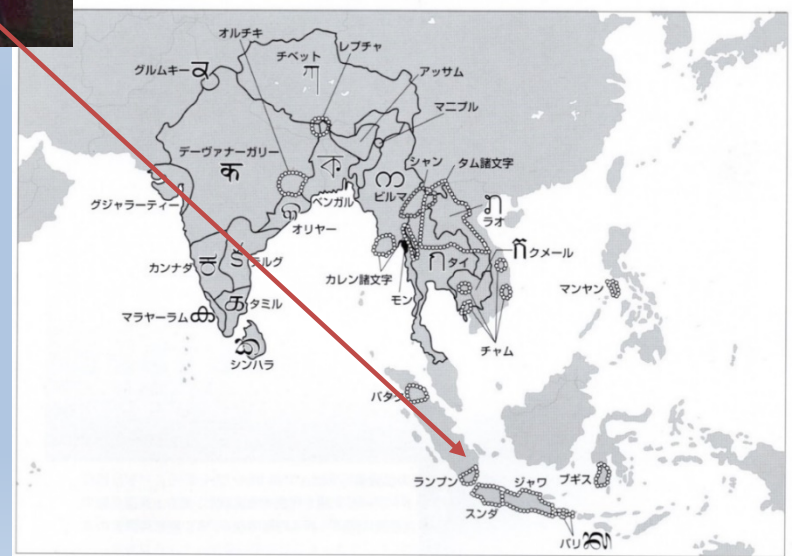




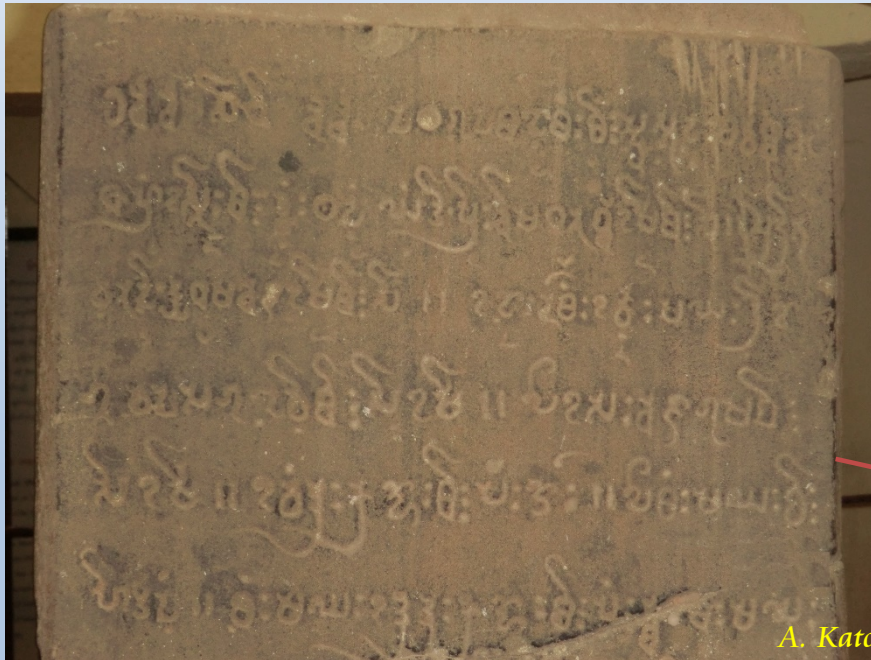
1920年代に南部スマトラで見つかったシュリーヴィジャヤ碑文群には古期ムラユ語(Old Malay)がパッラヴァ文字で書かれている。このうち最も古いクドゥカン・ブキト碑文(Kedukan Bukit inscription)は西暦紀元683年に刻まれたものである。

ムラユ語の表記はかつてこのようにインド系文字で行われたが、後にアラビア文字に取って代わられる。

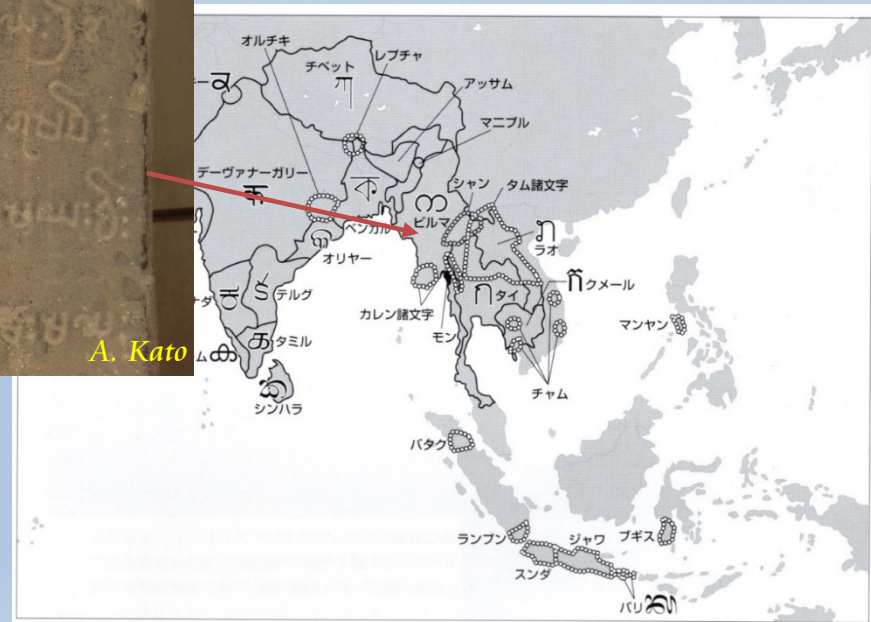
Wikipedia, **Kedukan Bukit inscription** から引用。
https://en.wikipedia.org/wiki/Kedukan_Bukit_inscription



消滅した言語の文字も残されている。ピュー人(Pyu)は古代ビルマに栄えた民族であるが、いつしか姿を消してしまった。その言語であるピュー語は石碑や骨壺に残されている。ピュー語がシナ・チベット系(の中のチベット・ビルマ系)であることは明らかだが、詳しいことはいまだ不明である。



ラージャクマール碑文(西暦1112または1113年)のピュー語面



A. Kato

インド系文字一覽

上から下へは、母音字、kaの字を例にした母音記号のつき方、子音字の順です。左から右へは、インド系文字の源であるブラーフミー文字、北インドの文字、そこから派生したチベット、南インド、東南アジアの各文字

●主要なインド系文字の一覽●

(1)

	ブラーフミー	ナーガリー	グルムキー	ベンガル	オリヤー	チベット	シンハラ	テルグ	カンナダ	タミル	マラーヤラム	グランタ	バリ	クメール	タイ	ラオ	ビルマ
a	अ	𑀅	𑀓	অ	ଅ	ཨ	ආ	అ	ಅ	அ	അ	𑀇	𑀓	𑀓	𑀓	𑀓	အ
ā	आ	𑀆	𑀔	আ	ଆ	ཨ	ආ	ఆ	ಆ	ஆ	അ	𑀈	𑀔	𑀔	𑀔	𑀔	အာ
i	इ	𑀇	𑀕	ই	ଈ	ཨ	ඈ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀉	𑀕	𑀕	𑀕	𑀕	အီ
ī	ई	𑀈	𑀖	ঈ	ଈ	ཨ	ඉ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀊	𑀖	𑀖	𑀖	𑀖	အီး
u	उ	𑀉	𑀗	উ	ଉ	ཨ	ඊ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀋	𑀗	𑀗	𑀗	𑀗	အူ
ū	ऊ	𑀊	𑀘	ঊ	ଊ	ཨ	උ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀌	𑀘	𑀘	𑀘	𑀘	အူး
e	ए	𑀋	𑀙	এ	ଏ	ཨ	ඌ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀍	𑀙	𑀙	𑀙	𑀙	အေ
ai	ऐ	𑀌	𑀚	ঐ	ଐ	ཨ	ඌ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀎	𑀚	𑀚	𑀚	𑀚	အൈ
o	ओ	𑀍	𑀛	ঔ	ଌ	ཨ	ඍ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀏	𑀛	𑀛	𑀛	𑀛	അ
au	औ	𑀎	𑀜	ঔ	ଌ	ཨ	ඎ	ఱ	ಱ	ற	അ	𑀐	𑀜	𑀜	𑀜	𑀜	അ
ka	क	𑀏	𑀝	ক	କ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀑	𑀝	𑀝	𑀝	𑀝	က
kā	का	𑀐	𑀞	কা	କା	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀒	𑀞	𑀞	𑀞	𑀞	ကာ
ki	कि	𑀑	𑀟	কি	କି	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀓	𑀟	𑀟	𑀟	𑀟	കി
kī	की	𑀒	𑀠	কী	କି	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀔	𑀠	𑀠	𑀠	𑀠	കീ
ku	कु	𑀓	𑀡	কু	କୁ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀕	𑀡	𑀡	𑀡	𑀡	കു
kū	कू	𑀔	𑀢	কু	କୁ	ཨ	ක	క	ക	க	ക	𑀖	𑀢	𑀢	𑀢	𑀢	കൂ
ke	के	𑀕	𑀣	কে	କେ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀗	𑀣	𑀣	𑀣	𑀣	കെ
kai	कै	𑀖	𑀤	কৈ	କୈ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀘	𑀤	𑀤	𑀤	𑀤	കൈ
ko	को	𑀗	𑀥	কো	କୋ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀙	𑀥	𑀥	𑀥	𑀥	കൊ
kau	कौ	𑀘	𑀦	কৌ	କୌ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀚	𑀦	𑀦	𑀦	𑀦	കൌ
ka	क	𑀏	𑀝	ক	କ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀑	𑀝	𑀝	𑀝	𑀝	ക
kha	ख	𑀙	𑀟	খ	ଖ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀓	𑀟	𑀟	𑀟	𑀟	ക
ga	ग	𑀛	𑀡	গ	ଗ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀕	𑀡	𑀡	𑀡	𑀡	ക
gha	घ	𑀜	𑀢	ঘ	ଘ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀖	𑀢	𑀢	𑀢	𑀢	ക
na	न	𑀚	𑀠	ন	ନ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀗	𑀠	𑀠	𑀠	𑀠	ക
ca	च	𑀞	𑀣	চ	ଚ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀙	𑀣	𑀣	𑀣	𑀣	ക
cha	छ	𑀟	𑀤	ছ	ଛ	ཨ	ක	క	ಕ	க	ക	𑀚	𑀤	𑀤	𑀤	𑀤	ക

インド系諸文字の対応

子音文字、母音記号などの個々の文字要素の多くが一対一に近い形で対応する(ブラーフミー文字の要素一覽は次々ページ)。対応する文字要素はどの言語でも似たような発音で読まれる。

このような規則性が生じた理由として、インド系借用語(サンスクリット語やパーリ語)を語源どおりに表記したいという意識が働いたことが考えられる。

ただし、各言語の事情に合わせて、不要な文字を捨てたり新しい字形を作ったりというような加除も行われている。

東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所(編)
『図説 アジア文字入門』(2005, pp. 26-27)から引用

です。左端にラテン文字で示したのはブラーフミー文字の読みです。表には歴史的な対応関係がわかるように、クメール文字やビルマ文字の独立母音字など実際につかわれる頻度の少ないものも入っています。空欄は対応す

る字形がない場合です。

ブラーフミー文字の列は、アショーカ王碑文を中心とする拓本の中から適当な字形を抜き出したものです。適当な字形が見つからなかったものは空欄にしてあります。

(2)

	ブラーフミー	ナーガリー	グルムキー	ベンガル	オリヤー	チベット	シンハラ	テルグ	カンナダ	タミル	マラーヤラム	グラント	パリ	クメール	タイ	ラオ	ビルマ
ja	ᱠ	ᱡ	ᱢ	ᱣ	ᱤ	ᱥ	ᱦ	ᱧ	ᱨ	ᱩ	ᱪ	ᱫ	ᱬ	ᱭ	ᱮ	ᱯ	ᱰ
jha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ña	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ṭa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ṭha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ḍa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ḍha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ṇa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ta	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
tha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
da	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
dha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
na	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
pa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
pha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ba	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
bha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ma	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ya	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ra	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
la	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
va	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
śa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ṣa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
sa	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ
ha	ᱠᱡ	ᱡᱢ	ᱢᱣ	ᱣᱤ	ᱤᱥ	ᱥᱦ	ᱦᱧ	ᱧᱨ	ᱨᱩ	ᱩᱪ	ᱪᱫ	ᱫᱬ	ᱬᱭ	ᱭᱮ	ᱮᱯ	ᱯᱰ	ᱰᱱ

ブラーフミー文字の要素

子音文字(字母)

+	?	^	ㄣ	ㄚ	人	◎	ㄣ	D	⊥
{k}	{kh}	{g}	{gh}	{ng}	{t}	{th}	{d}	{dh}	{n}
d	ㄉ	ε	ㄏ	ㄏ	し	ㄆ	□	ㄏ	ㄨ
{c}	{ch}	{j}	{jh}	{n~}	{p}	{ph}	{b}	{bh}	{m}
C	○	ㄣ	ㄉ	I					
{T}	{Th}	{D}	{Dh}	{N}					

Sawada, Hideo [澤田英夫] (2014) Adapting an Existing Script to Strange Languages: Cases of Indic Scripts in Mainland Southeast Asia. IESSA Workshop, 27 FEB 2014 から引用

↓	l	ㄣ	ㄉ	A	ㄣ	ㄣ	ㄣ
{y}	{r}	{l}	{v}	{Sh}	{S}	{s}	{h}

独立母音文字

母音記号および母音鼻音化記号

+	ㄣ	ㄣ	ㄣ	ㄣ
{-a}	{-i}	{-u}	{-e}	{-o}
ㄣ	ㄣ	ㄣ	ㄣ	
{-aa}	{-ii}	{-uu}	{-ai}	

インド系文字の仕組み

●ブラーフミー文字とその子孫たちの音節表記対照表(子音字k-の場合)●

ブラーフミー	𑀓	𑀔	𑀕	𑀖	𑀗	𑀘	𑀙	𑀚
	ka	kā	ki	kī	ku	kū	ke	ko
デーヴァナーガリー	क	का	कि	की	कु	कू	के	को
テルグ	క	కా	కి	కీ	కు	కూ	కె	కో
チベット	ཀ	-	ཀའ	-	ཀའའ	-	ཀའཀ	ཀའཀའ
ビルマ	က	ကာ	ကိ	ကီ	ကု	ကူ	ကေ	ကော
タイ	ก	กา	กิ	กี	กู	กู่	เก	กอ

東京外大アジア・
アフリカ言語文化
研究所(編)
『図説 アジア文字
入門』(2005, p.
16)から引用

子音文字(字母)を中心に据え、その上下左右に記号を付けて、字母が表す子音を初頭子音として持つ音節を表していく。

ただし、個々の言語ではその音韻体系に合わせて様々な独自ルールが作られ、それに基づいて運用されている。以下ではビルマ文字とタイ文字を例に取って見てみる。

3. ビルマ文字とタイ文字を例にとって詳細を見る

①ビルマ文字の仕組み

ビルマ文字ービルマ語[=ミャンマー語。チベット・ビルマ系]を書くための文字。11世紀頃から使用。



A. Kato

子音文字(字母)

᠎	ᠠ	ᠨ	ᠠ	ᠴ
k	kh	g	g	ŋ
ᠰ	ᠱ	ᠵ	ᠵ	ᠵ
s	sh	z	z	ʃ
ᠲ	ᠳ	ᠳ	ᠳ	ᠨ
t	th	d	d	n
ᠳ	ᠳ	ᠳ	ᠳ	ᠨ
t	th	d	d	n
ᠰ	ᠱ	ᠵ	ᠵ	ᠵ
p	ph	b	b	m
ᠠ	ᠠ	ᠠ	ᠠ	ᠠ
y	y/r	l	w	ʈ
	ᠠ	ᠴ	ᠠ	
	h	l	ʔ	

注:<子音補助記号>

以下の4つ。介子音-y-や-w-の挿入、鼻音・流音の無声化等を表す。

ᠶ, ᠶ, ᠠ, ᠠ
-y- -y- -w- h-

(例) ᠶ, ᠶ, ᠠ, ᠠ
my- my- mw- hm-

母音と声調の書き方 (ビルマ語にはインドの言語には通常ない声調があるので少し複雑になっている)

	下降調	低平調	高平調
a	◌ -â, -ă	◌ -à	◌: -á
i	◌ -î	◌ -ì	◌: -í
u	◌ -û	◌ -ù	◌: -ú
e	◌ -ê	◌ -è	◌: -é
ε	◌ -ê	◌ -ε	◌ -'é
o	◌ -ô	◌ -ò	◌ -'ó
o	◌ -ô	◌ -ò	◌: -ó

音節末子音 /-ʔ/ で終わる音節の書き方 (「*」の後は昔の推定音。昔はp, t, c, kなどの閉鎖音で終わっていた。促音節と呼ぶ)

-εʔ	◌ᵏ	*-ak
-auʔ	◌ᵒᵏ	*-ok
-aiʔ	◌ᵒᵏ _ᵏ	*-əᵏ
-iʔ	◌ᵓ	*-ac
-aʔ	◌ᵒᵗ	*-at
	◌ᵒᵓ	*-ap
-eiʔ	◌ᵒᵗ	*-it
	◌ᵒᵓ	*-ip
-ouʔ	◌ᵒᵗ _ᵏ	*-ut
	◌ᵒᵓ _ᵏ	*-up
-uʔ	◌ᵒᵗ	*-wat
	◌ᵒᵓ	*-wap

ビルマ文字を読んでみよう



အနံ့နို့ခေါက်ဆွဲဝယ်စားမယ်။

?óun-nô khau?shwé wè sá mè
ココナッツ-ミルク ラーメン 買う 食べる (未来)

ココナッツ・ラーメンを買って食べよう。

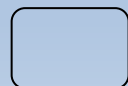
②タイ文字の仕組み

タイ文字ータイ語[タイ・カダイ系]を書くための文字。13世紀から使用。

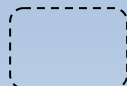


子音文字(字母)

	ก k-, -k	ข kh-, -k		ค kh-, -k		ฃ kh-, -k	ง ŋ-, -ŋ
	จ c-, -t	ฉ ch-, -t		ช ch-, -t	ซ s-, -t	ฅ ch-, -t	ญ y-, -n
ฎ d-, -t	ฏ t-, -t	ฐ th-, -t		ฑ th-, -t		ฒ th-, -t	ณ n-, -n
ด d-, -t	ต t-, -t	ถ th-, -t		ท th-, -t		ธ th-, -t	น n-, -n
บ b-, -p	ป p-, -p	ผ ph-, -p	ฝ f-, -p	พ ph-, -p	ฟ f-, -p	ภ ph-, -p	ม m-, -m
	ย y-, -y	ร r-, -n	ล l-, -n	ว w-, -w			
	ศ s-, -t	ษ s-, -t	ส s-, -t	ห h-	ฬ l-, -n	อ ʔ-	ฮ h-



中子音字



高子音字

他は低子音字

* 例えば k- は音節頭子音としての読み方、-k は音節末子音としての読み方。

声調の書き方

タイ語にも声調があるため少々複雑になっている。ビルマ文字と違って、声調の書き方は母音記号から独立している。

	開音節(および鼻音終わりの音節)			閉鎖音終わりの閉音節	
	声調記号なし	第一声調記号	第二声調記号	長母音	短母音
低子音	ฟา phaa	ฟ่า phâa	ฟ้ำ pháa	ฟาก phâak	ฟัก pháak
中子音	ปา paa	ป่า pàa	ป้ำ pâa	ปาก pàak	ปัก pàk
高子音	ผา phǎa	ผ่า phàa	ผ้ำ phâa	ผาก phàak	ผัก phàk

●**中子音字**はタイ文字ができた13世紀頃に無声無気音と声門化音を表していた文字。

●**高子音字**は無声有気音、無声摩擦音、無声鼻音、無声流音を表していた文字。

●**低子音字**は有声音を表していた文字。

●文字ができた13世紀より後に有声子音(b, d, g, zなど)の無声化が起き、それと同時期にかつて3つあった声調の分岐が起きた。声調の分岐の仕方は子音の種類によって異なっていた。そのため、同じ声調記号なのに子音字の種類によって読み方を変えなければならなくなった。

母音と音節末子音の書き方

	短母音		長母音	
	開音節 (実際には -ʔで終わる)	閉音節	開音節	閉音節
a	ᵛ -aʔ	ᵛC	ᵛᵛ -aa	ᵛᵛC
i	ᵢ -iʔ	ᵢC	ᵢᵢ -ii	ᵢᵢC
u	ᵘ -uʔ	ᵘC	ᵘᵘᵘ -uuu	ᵘᵘᵘC
e	ᵛᵛ -eʔ	ᵛᵛC	ᵛᵛ -ee	ᵛᵛC
ɛ	ᵛᵛᵛ -ɛʔ	ᵛᵛᵛC	ᵛᵛᵛ -ɛɛ	ᵛᵛᵛC
o	ᵛᵛᵛ -oʔ	ᵛᵛC	ᵛᵛᵛ -oo	ᵛᵛᵛC
ɔ	ᵛᵛᵛᵛ -ɔʔ	ᵛᵛᵛᵛC	ᵛᵛᵛᵛ -ɔɔ	ᵛᵛᵛᵛC
ə	ᵛᵛᵛᵛ -əʔ	ᵛᵛᵛᵛC	ᵛᵛᵛᵛ -əə	ᵛᵛᵛᵛC
ia			ᵛᵛᵛᵛᵛ -ia	ᵛᵛᵛᵛᵛC
ua			ᵛᵛᵛᵛᵛ -ua	ᵛᵛᵛᵛᵛC
ua			ᵛᵛᵛᵛᵛ -ua	ᵛᵛᵛᵛᵛC

末子音を含む記号	
am	ᵛᵛᵛᵛᵛ -am
ay	ᵛᵛᵛᵛᵛ -ay
ay	ᵛᵛᵛᵛᵛ -ay
aw	ᵛᵛᵛᵛᵛᵛ -aw
əy	ᵛᵛᵛᵛᵛᵛᵛ -əy

タイ文字を読んでみよう



ไปซื้อรถที่กรุงเทพฯ

pay súu rôt thîi krunthêep
行く 買う 車 で バンコク

バンコクに車を買いに行った。

③参考: モン文字(Mon script)について少し

※この「モン」はMon。Hmong語(ミャオ・ヤオ系)ではないことに注意。Mon語はモン・クメール系の言語。声調は無し。

က ka やかん

ဂါ kèə 枷(かせ)

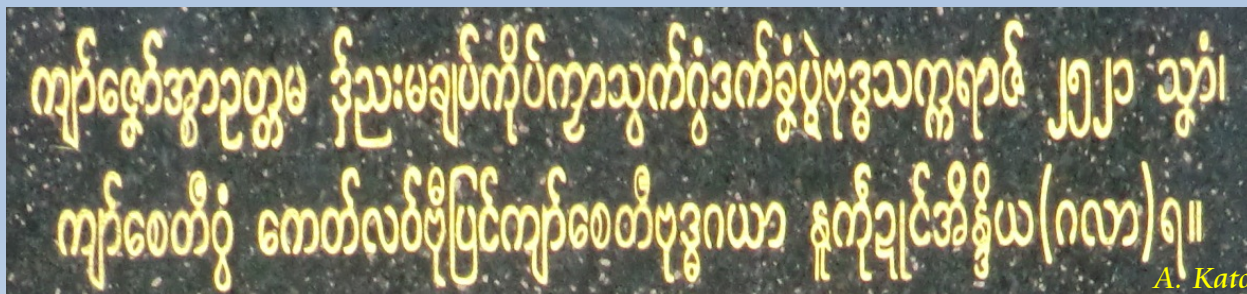
坂本恭章(1994)『モン語辞典』東京外大AA研.



ミャンマー政府発行のパンフレットから

同じ母音記号 ဝ (ါ) が付いているのに、母音の読み方が異なる。これは、昔は有声だった音節頭子音が無声化したという歴史的変化の影響で母音も発音が変わってしまったからである。昔は有声音で始まっていた音節の -a は -èə に変わってしまった。「枷」も昔はおそらく *ga のように発音されていたが、g- が k- になると同時期に母音が -a から -èə に変わってしまった。

この現象のため、モン文字の読み方(特に母音記号)は複雑になってしまっている。字母がもともと表していた子音が無声・有声のどちらだったのかを覚えておかなければならないのである。クメール語でも同様の現象が起きたため、やはり文字と発音の対応が複雑になってしまっている。



4. インド系文字と日本との関係



梵字 (悉曇文字)

北インドで6～9世紀頃に使われた文字シッダマトリカー(siddhamātrkā)に起源を持つ文字。仏教と共に日本に入ってきた。これを研究する学問を悉曇学と呼ぶ。

卒塔婆(そとば、そとうば)には上から kha, ha, ra, va, a (きや・か・ら・ば・あ)の文字が書かれる。これは空・風・火・水・地の「五大」を象徴している。

卒塔婆に書かれたそれぞれの梵字は、ビルマ文字の ၵ, ၶ, ၷ, ၸ, ၹ、タイ文字の ๕, ๖, ๗, ๘, ๙, ๐ に対応する。(31ページから32ページの表をご覧ください。ただければ他の文字との対応も分かります。)

五十音図

ᄀ	ᄁ	ᄂ	ᄃ	ᄄ
k	kh	g	g	ŋ
ᄆ	ᄇ	ᄈ	ᄉ	ᄊ
s <*c	sh <*ch	z <*j	z <*j	ɲ
ᄌ	ᄍ	ᄎ	ᄏ	ᄐ
t	th	d	d	n
ᄒ	ᄓ	ᄔ	ᄕ	ᄖ
t	th	d	d	n
ᄘ	ᄙ	ᄚ	ᄛ	ᄜ
p	ph	b	b	m
ᄞ	ᄟ	ᄠ	ᄡ	ᄢ
y	y/r	l	w	ɭ <*s
	ᄤ	ᄥ	ᄦ	
	h	l	ʔ	

左はビルマ文字の配列。インド系諸文字の多くはこれと同様に配列される(ジャワ文字のように独自の配列を使うものもある)。赤で囲った部分の左端を見ると、上から k, c, t, t, p という順序で並んでいる(上から三段目は古代インド語の反り舌音を表す文字)。これは調音点(=口の中で閉じる位置)が後から前になるように配慮して並べられたものである。

梵字は7世紀頃に日本に伝わった。日本語の五十音図(アイウエオ表)がアカサタナハマ...という配列になっているのは悉曇学を通じてこの順序が入ってきたからである(サ行とハ行の音は昔違っていた)。

五十音図は平安時代中期(11世紀)に原形ができ、平安時代の終わり頃には今日に近い形をしていた。

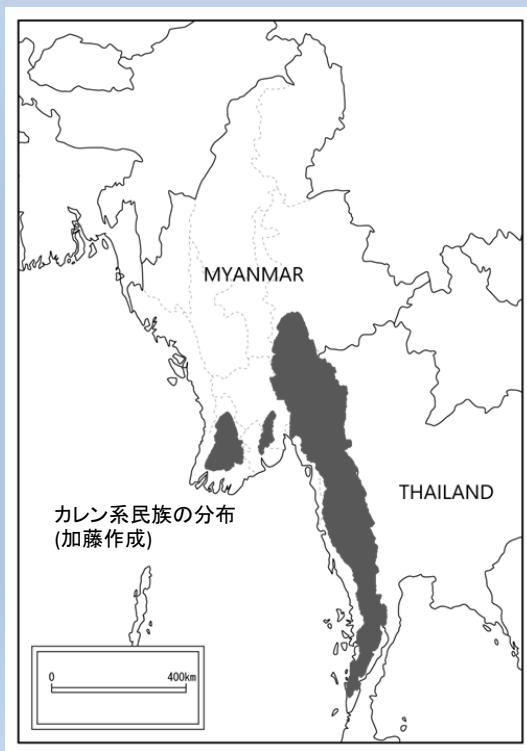
参考

坂田貞二(1991)「天竺のことば、日本の五十音」『日本音響学会誌』47巻8号, pp. 588-595.

5. カレン諸文字について



カレン諸文字



カレン人(カレン族)

ミャンマー南部からタイ西部にかけて暮らすチベット・ビルマ系(の言語を話す)民族。人口400万人以上を擁する。代表的な言語にスゴー・カレン語、東部ポー・カレン語、西部ポー・カレン語がある。また近縁のカヤー語やパオ語等も含めてカレン系民族と呼ばれる。ミャンマー独立直後の1949年から70年以上にわたってミャンマー政府に対する武力闘争を行っていることでも知られる。

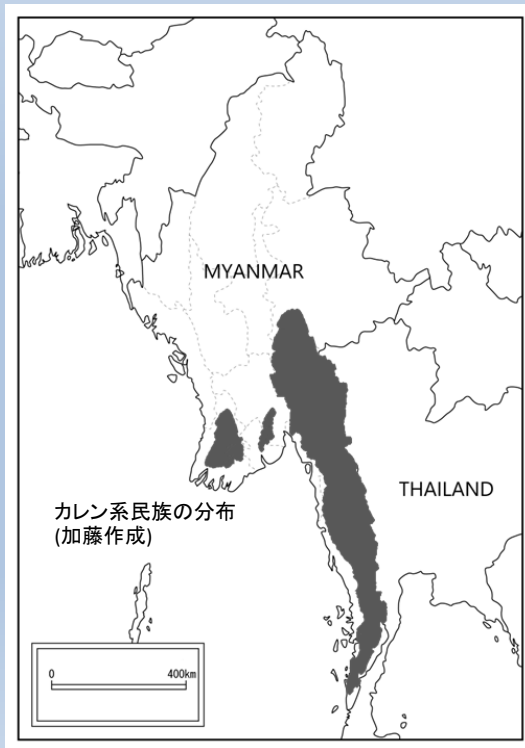
カレン人の使う文字には様々なものがある。



カレン人(カレン族)

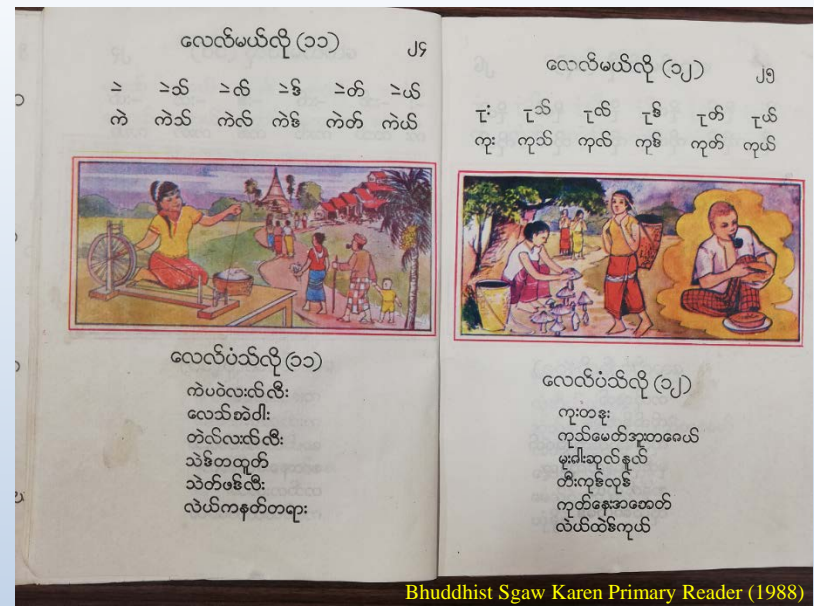
ミャンマー南部からタイ西部にかけて暮らすチベット・ビルマ系(の言語を話す)民族。人口400万人以上を擁する。代表的な言語にスゴー・カレン語、東部ポー・カレン語、西部ポー・カレン語がある。また近縁のカヤー語やパオ語等も含めてカレン系民族と呼ばれる。ミャンマー独立直後の1949年から70年以上にわたってミャンマー政府に対する武力闘争を行っていることでも知られる。

カレン人の使う文字には様々なものがある。

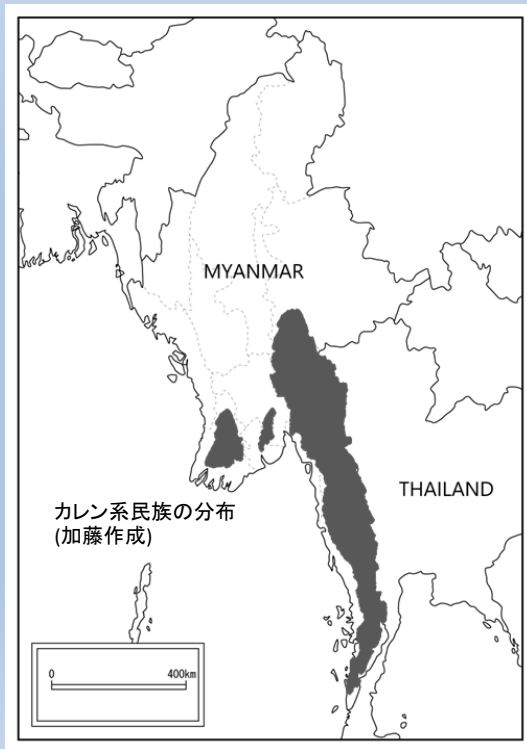




A. Kato



Buddhist Sgaw Karen Primary Reader (1988)



カレン人(カレン族)

ミャンマー南部からタイ西部にかけて暮らすチベット・ビルマ系(の言語を話す)民族。人口400万人以上を擁する。代表的な言語にスゴー・カレン語、東部ポー・カレン語、西部ポー・カレン語がある。また近縁のカヤー語やパオ語等も含めてカレン系民族と呼ばれる。ミャンマー独立直後の1949年から70年以上にわたってミャンマー政府に対する武力闘争を行っていることでも知られる。

カレン人の使う文字には様々なものがある。

代表的な4つの文字(1)

キリスト教スゴー・カレン文字

アメリカ人宣教師により、1830年代に作られた。ビルマ文字に基づいているが、独自の改変がかなりある。カレン文字の中で最も普及している。

စးထီၣ်ဖဲ ဟီၣ်ခိၣ်ဖိ အတၢ်စံၣ်စိၤတဲစိၤ ဘၣ်တၢ်
သ့ၣ်ညါထီၣ်ဝဲ ဒီးတုၤလီၤလၢ စိၤခဲအံၤဒၣ်လဲၣ် ပှၤပိၣ်မုၢ် တဖၣ်
ပှၤပၣ်ပနီၣ်အိၤ ဒ်အမုၢ်ဝဲ ပှၤကလုၣ်ခံပတီၢ်တပတီၢ် တကး
ဒီးဘၣ် မုၢ်စ့ၢ်ကီး ပှၤကလုၣ်တကလုၣ်လၢ ဘၣ်တၢ်စိၣ်မၤ
ကဲကုၢ်တကလုၣ် အသီးန့ၣ်လီၤ.
တၢ်ပၣ်သ့ၣ်ပၣ်သးတကလုၣ်အံၤ ပထံၣ်အိၤသ့
တမုၢ်ထဲလၢ ပှၤပိၣ်ခွါဘၣ် ဒီးအိၣ်ဝဲလၢ ပှၤပိၣ်မုၢ်တဖၣ်
အတၢ်ပၣ်သးအပူၣ်စ့ၢ်ကီးလီၤ. မ့မုၢ်ယၤ ယထံၣ်လၢ ပိၣ်မုၢ်ဒီး
ပိၣ်ခွါအန့ဆၢၣ် တၢ်အိၣ်သး မုၢ်လီၤဆိဘၣ်ဆၣ် အတီၤဖျၢၣ်
အတီၤထီ တအိၣ်ဘၣ်န့ၣ်လီၤ.

参考: Kato, Atsuhiko (2023) “Letalanyah: A Buddhist writing system of Sgaw Karen.” *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 54, pp. pp. 27–52.

代表的な4つの文字(2)

仏教スゴー・カレン文字

カレン州に住む仏教僧によって、おそらく1960年代に作られた。ビルマ文字(部分的にモン文字)に基づく。主にミャンマーのカレン州に住む仏教徒のスゴー・カレン人によって使われている。

ꠘꠞꠟꠞ-နီတ် (ꠞꠟ) ဘုံထံတ်ဘတ် မဏောလ်ရတု တသ်မယ်နံတ် မဲဒ်ကဇေးလေလ်
အိုဒ်တဘေတ်အီယ် ဘာသာအိုတ်ဝဲ လို့သ်မိယ်လံယ်။ ပယံယ်ပျိုသ် ပကညံ၊ ပုကညီ
မေသ်ဝဲဒတ်တသ်လို့သ်မိယ်အီယ်လံယ်။

ဘတ်ဆဲဝဲဒတ်လုံ လေလ်ပကညံအီယ်ပွယ်ကွဲဒ်လေလ်ဖို ယှယ်ဝဲအယို လုံမဲဒ်ကဇေးပူယ်နေတ်
ပတ်ယှယ်ဝဲအယိုနေတ်လံယ်။

မေးဝီယ်ဒေါဒ် ဘတ်ဆဲဒတ်လုံ သရ အကယးနေတ် အဲတ်ဒေါဒ်တသ်လုံညာနေတ်အိုတ်စေသ်
အဲတ်ဒေါဒ် တသ်အခါးအီယ်နေတ်အိုတ်စေသ် အယို ပဆူးနံလ်လံယ်ယုံလ်ဝဲ ဒီးမိယ်လးလ်နေတ်လံယ်။

ပကညံလေလ်အီယ် လုံအမဲလ်ညားကတးသ် ဆူးနံလ်လံယ်ဘတ်လုံ မဲဒ်ကဇေးပူယ်အယို
အကမတ်မေအိုတ် နသ်ပးသ်ဖွဲထးကဲလသ် ပွယ်သီးကွသ်လေတ်ဖို တကေသ်နေတ်ဟူးပရးဘတ်
ပွယ်ကွသ်လေလ်ဖိုသေတ် ကောဒ်ဂယ်ဒဲဒ်စေသ်လံယ်။

参考: Kato, Atsuhiko (2023) “Letalanyah: A Buddhist writing system of Sgaw Karen.” *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 54, pp. pp. 27–52.

代表的な4つの文字(3)

仏教ポー・カレン文字

仏教僧により、おそらく18世紀後半あるいは19世紀初頭に作られた。モン文字に基づくが、1960年代にビルマ文字の要素を取り入れて整備された。由来が証明できるカレン文字の中では最も古い。

ဖွံ့ဆိုင်ဖောဟ်သယ်ယိုင် ဟ့မာသာမဝ်မုံ ဖဝ်ဆိုင်
ယဝ်ခါသိုင်လှ်။ ဝးလဲတ်စိုင် ကင်းထင်းသာ လှ်ဆိုင်ဆဖဝ်
ခေါဟ်ကို အှ်လှ်ကင်၊ မိုမးလှ်ကင်းသာလိုင်ဝးကို အးဝေ
လှ်။ ဆိုယဝ်ခါ ပုဂ်ထင်း လိက်ဖွံ့ဆွင်ဖဝ်စ်စိုင် သေ့ယာ
လေဝ်မာလောဟ်ကောင် လိက်ဖွံ့ကို အှ်ယှာလှ်။ မာ
လောဟ် ကောင်ဟိုင်ယုဂ်သီး ကေ့စိုဒ်ကောင် ကေ့စိုဒ်ပဝ်
လိုင်မာယူယာကောင်သာလှ်ကဲ ဆိုင်မုံအင်းမိုင် ချက်မာ
လောဟ်ထောင် ဖွံ့သယ်ချင် မာသေ့အေး။ မာသေ့ယုဂ်သီး

参考: Kato, Atsuhiko (2021) Pwo Karen writing systems. *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 52, pp. 23–55.

仏教ポー・カレン文字の貝多羅葉(ばいたらよう)をポー・カレン人の有識者と共に読んでいるところ(於ミャンマー連邦カレン州パアン市)。貝多羅葉とは、椰子の葉に鉄筆で文字を刻み込んだもの。貝葉(ばいよう)とも言う。



代表的な4つのカレン文字(4)

キリスト教ポー・カレン文字

アメリカ人宣教師によって1840年代に作られた。キリスト教スゴー・カレン文字に基づいて改変したもの。

ပုဖျိးၵိအဆၢခဲးဖျိးအကဲးလဖၢ အိၵၢတဲါ
နီၵအဝိး လၢဆၢခဲးလဖၢအဖၢးနီၵလီၤ. ဆၢခဲးလဖၢ
ထိးအလူၤအဖၢးနီၵ အိၵဲအခါပယီၤလဖၢ ဒဲဆၢခဲးဖျိး
အကဲးလဖၢဆ့ အိၵဲအခါပယီၤဒဲ ထိးအထိးဘုးထဲး
ဆၢခဲးဖျိးအကဲးဂူၤဂၤလဖၢနီၵ အခါပယီၤအိၵထဲးထဲး
ဝ့ၤမ့ၤဝ့ၤ, အခါပယီၤအ့ၤလဲးထဲးအဘးမ့ၤဝ့ၤနီၵလီၤ.
ထိးယီၤပမိဆိးမိးဆၢခဲးဒုၤဒုၤစံးဆၢယီၤ တဲါယီၤ
အဝိးလီၤ.

参考: Kato, Atsuhiko (2022) Pwo Karen writing systems 2: Western Pwo Karen. *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 53, pp. 23–57.

その他のカレン文字 (1)

Romanized Sgaw Karen Alphabet (スゴー・カレン・ローマ字)

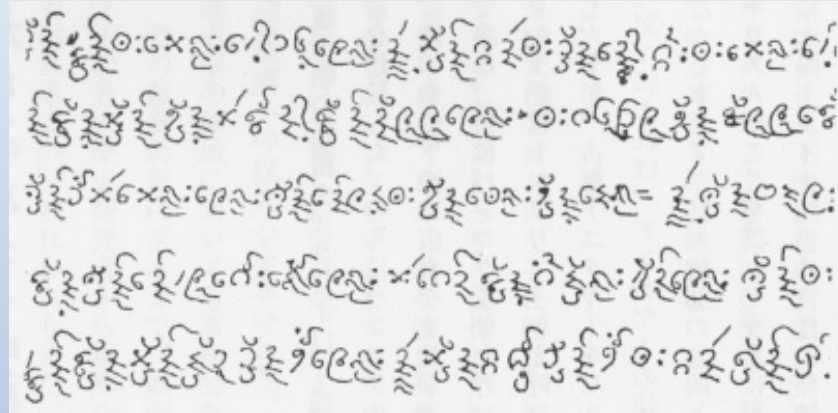
1930年代にプロテスタント系の宣教師によって作られたが、1950年代にカトリックの宣教師によって整備された。現在は主に北タイに住むカトリック信者のスゴー・カレン人によって使われている。

Taj av kwauj mejj wai **“taj luj taj laj”** le av hpla geiz t’ miz, muj bau cauz paz av hkai iz Taj kwauj le av kai hti kauj le av co dof k’mauz dof seif t’hpaf maz lauz biv lauz be kwix kwauj hpo kwauj paiv seif t’hpaf mejj geiz, pgaz k’lux av hpuf av hsiv seif t’hpaf av kwauj mejj geiz. Div le pgaz qukwaj seif nya taj baf qav dauv taj av kwauj seif t’hpaf tai hpla htauf wai daf le *“pgaz k’lux av hsiv av kwauj lauz maj kwix kauv muj niz, av cgaz k’tej t’niz niz t’kwauj kwauj neif lauz.”* Av qo neif, Dictionary Romei Pgaz K’Nyou kai wai taj maz gej klez keiz Pgaz K’Nyou av kwauj le av lof dof dauv luj dof pgeiz kaz t’ miz neif lauz. Y’seif nya le lix t’beif iz t’meij pgaz soo auf auz div Pgaz K’Nyou baf, baf hsaf k’nej baf taj soo auf auz s’kuz hauf hkof hkle. Le av cgaz k’tej k’baf taj pax lauz auz le lix tef pooz (library) le av dof seif t’hpaf kauv tauz daiv s’kuz hauf hkof hkle, div sauv pgaz cohpo le av sav lau qu seif nya naj pej taj av kwauj seif t’hpaf k’maz lo qukwaj seif nya wai dauv soo auf caih auf wai neif lauz.

その他のカレン文字 (2)

レーケー文字 (Leke script)

ミャンマーのカレン州に住むレーケー教徒によって使われているポー・カレン語の文字。1840年代にレーケー教の創始者によって作られた。レーケー教は弥勒菩薩を信仰するカレン人の新宗教。



レーケー教の祭壇(1994年撮影)

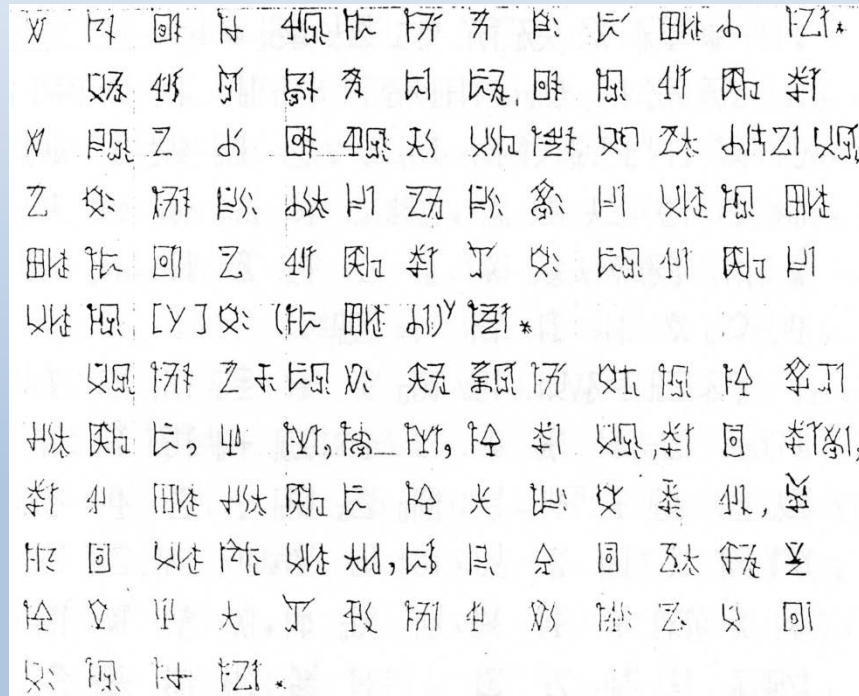


レーケー教の祭司(1994年撮影)

その他のカレン文字 (3)

レークエコー (Lekwaikaw, Lekwekor)

西暦2000年ごろに突然現れたカレンの「古代文字」。スゴー・カレン語を書き表す文字として出発した。最近ではポー・カレン語も書けるようになってきている。



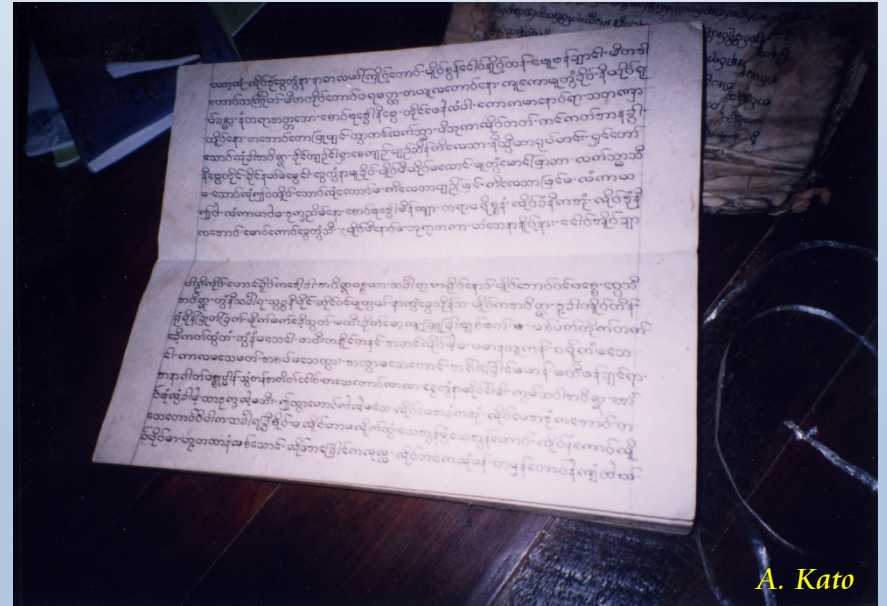
参考: Kato, Atsuhiko (2022) Lekwaikaw: A new “ancient” writing system of Karen. 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, Kyoto University.

その他のカレン文字 (4)

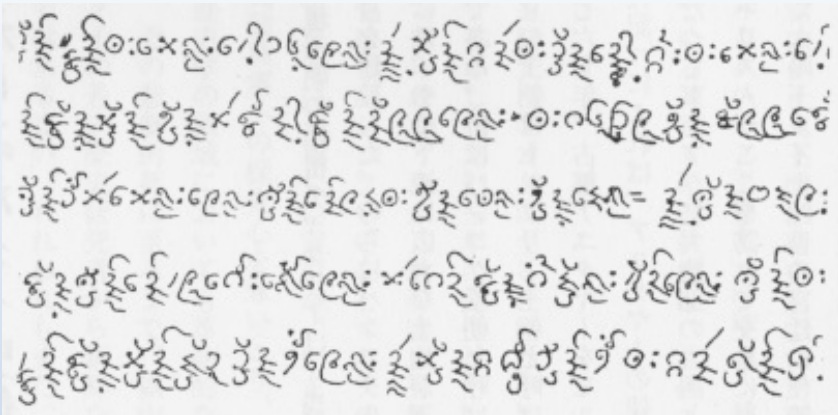
カレン系言語を話す民族には、狭義のカレン人以外にも、パオ人、カヤー人、カヤン人等々、様々な民族がいる(広義のカレン人)。このうちパオ人はビルマ文字に基づいて作られたインド系の書記体系を持つ。「カレン文字」(Karen scripts)には、こうした広義のカレン人の文字を含むことがある。



パオ人



パオ語の折り畳み写本

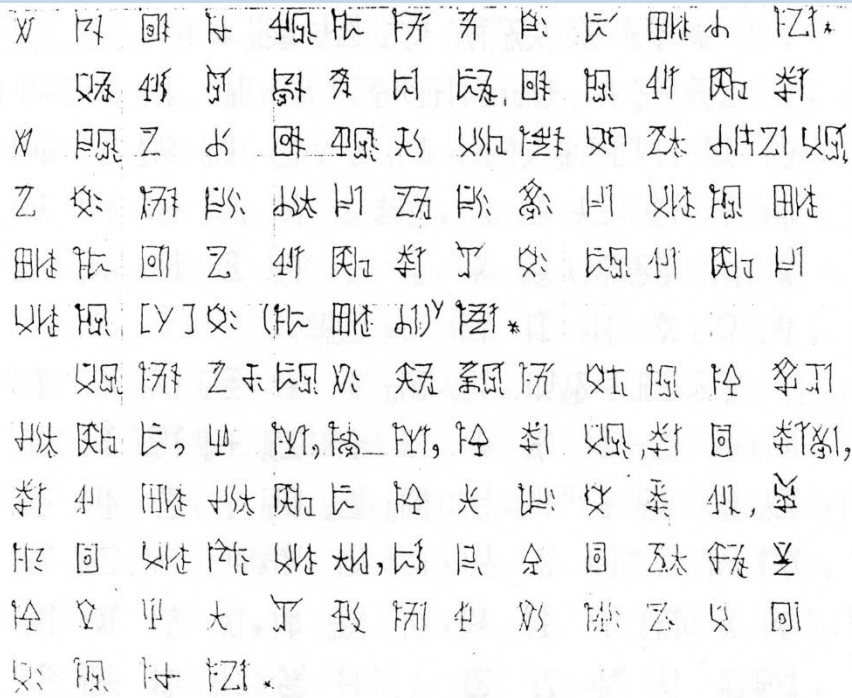


レーケー文字

カレン文字のうちレーケー文字と
レークエコーは独自の形をしている
(この点ではインド系文字とは言え
ない)。

しかし、「字母+付加記号」というイ
ンド系文字と同じシステムを取る。

レークエコーの例を少し詳しく見て
みる。

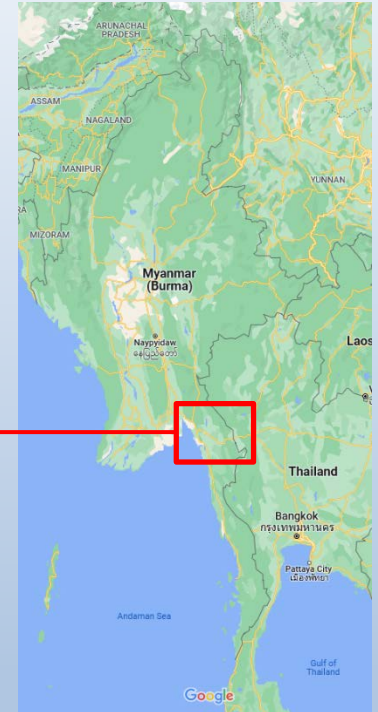
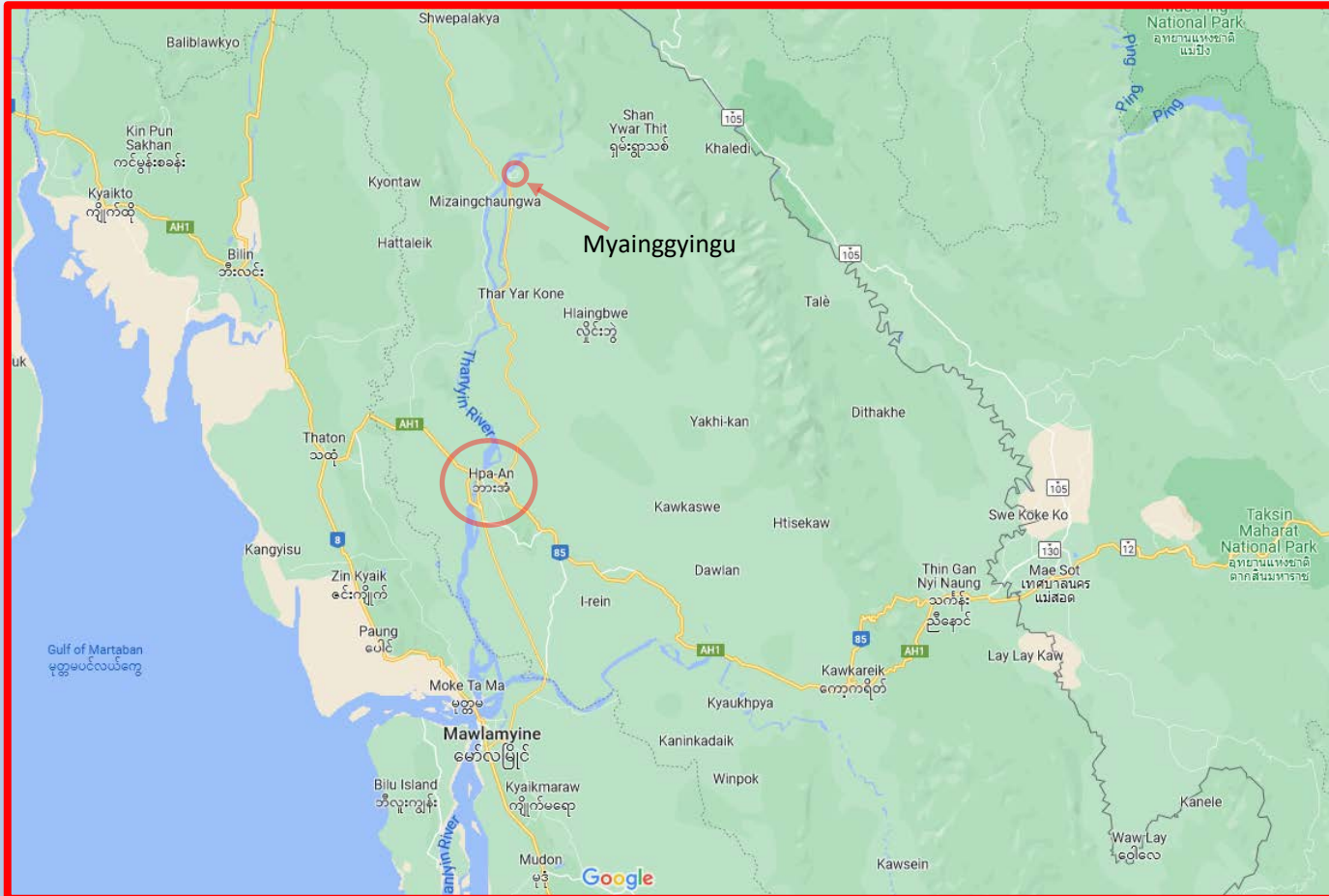


レークエコー

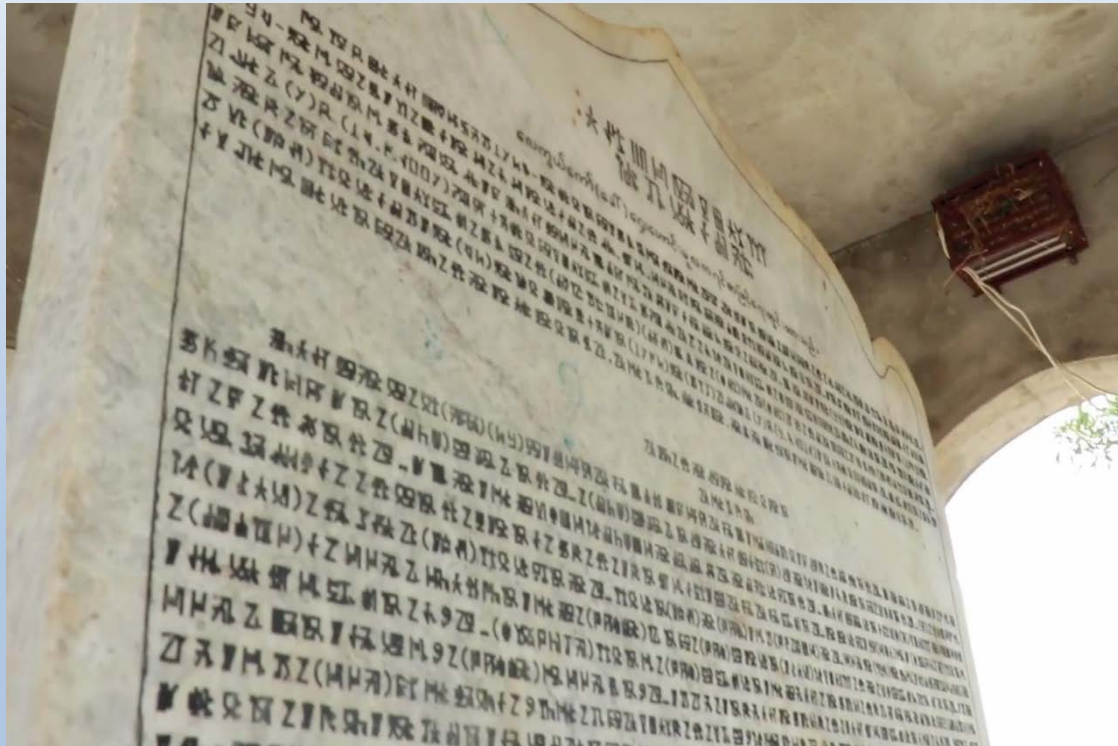


レークエコーを「復興」したとされるマインジーグー僧正(正式にはウー・トゥザナ師 U Thuzana)
YouTubeの“Kloh Htoo Baw Channel”のビデオから引用。
<https://www.youtube.com/watch?v=YmBQRfKQdRI>

パアン(Hpa-an; ミャンマー連邦カレン州の州都)とマインジーグー(Myainggyingu)の位置



レークエコーで書かれた碑文 (スゴー・カレン語)









































YouTubeのチャンネル“Morning Star”のビデオから引用。

<https://www.facebook.com/100816694625419/videos/2593185394279634>

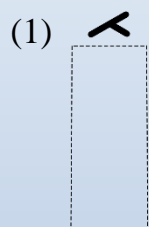
レークエコーの
字母表

大	ト	ハ	シ	チ
中	ナ	ニ	ヒ	ク
下	フ	マ	ミ	ヨ
下	セ	メ	メ	ト
下	メ	メ	メ	メ
下	メ	メ	メ	メ
下	メ	メ	メ	メ
下	メ	メ	メ	メ
	メ	メ	メ	

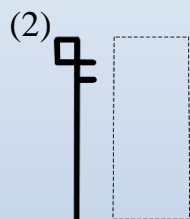
字母の読み方 (スゴー・カレン語。以下同様)

	/k-/ /		/kh-/ /		/g-/ /		/x-/ /		/ŋ-/ /
	/c-/ /		/ch-/ /		/z-/ /		/z-/ /		/ɲ-/ /
	/p-/ /		/ph-/ /		/b-/ /		/b-/ /		/m-/ /
	/j-/ /		/ɕ-/ /		/r-/ /		/w-/ /		/d-/ /
	/n-/ /		/th-/ /		/d-/ /		/d-/ /		/d-/ /
	/θ-/ /		/b-/ /		/t-~/d-/ /		/m-/ /		/l-/ /
	/h-/ /		/ɣ-/ /		/l-/ /		/th-/ /		/f-/ /
			/ʔ-/ /		/n-/ /		/t-/ /		

母音記号



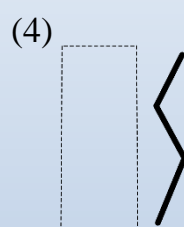
/i/



/e/



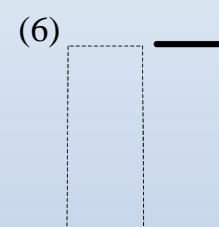
/ɛ/



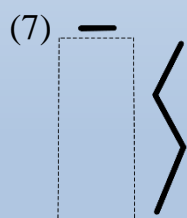
/i/



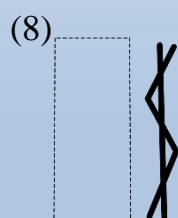
/ə/



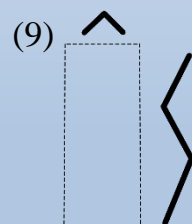
/a/



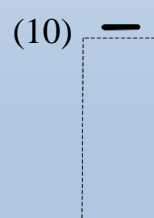
/u/



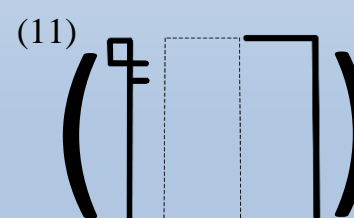
/u/



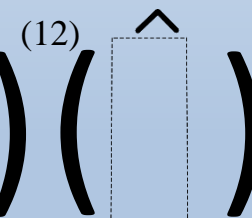
/o/



/ɔ/



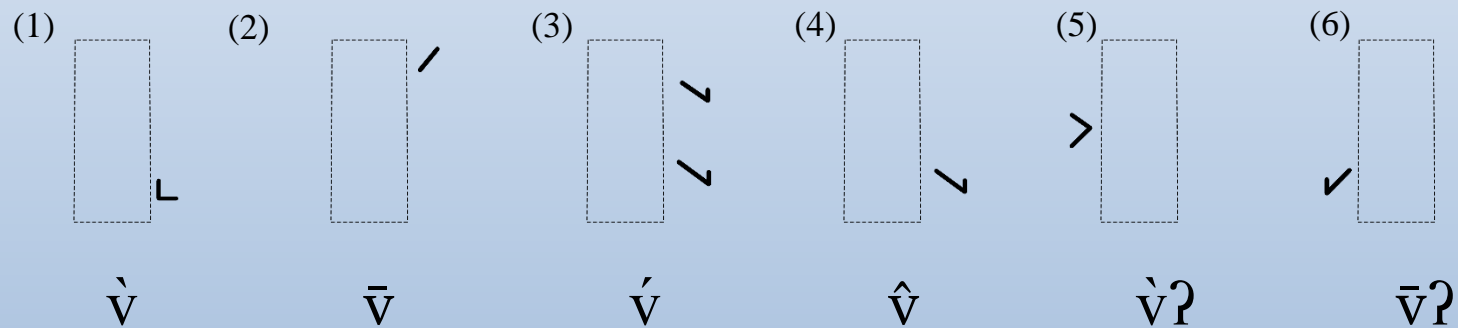
/ɔ/



/i/

• (11)と(12)はパーリ語からの借用語にだけ使われる。

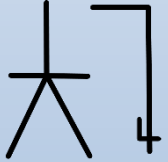
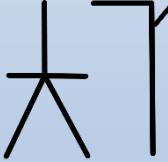
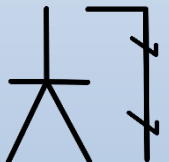
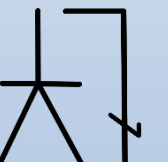


声調記号



- 軽声は声調記号を付けないことで表す。

/k-/ を表す子音字 𠂇 を例にとって、音節の書き方を見てみよう。

母音 /a/ の場合

- (1) 
 /kà/
- (2) 
 /kā/
- (3) 
 /ká/
- (4) 
 /kâ/
- (5) 
 /kàʔ/
- (6) 
 /kāʔ/


母音 /i/ の場合


(1)

/kì/

(2)

/kī/

(3)

/kí/

(4)

/kî/

(5)

/ki?/

(6)

/kī?/

語例 (スゴー・カレン語)

Y 7 3 2 Y 7 Z 7

/təxítālā/
「文化」

文例 (スゴー・カレン語)

𐄂 𐄂𐄂 𐄂𐄂。

/lē lú có/
go to school

「学校に行った」

■このようにレークエコーは、字母(子音字)に記号を付けることによって音節を表すという点で、インド系文字と共通するシステムを持っている。

■また、下図のように、ビルマ文字(括弧内)との明確な対応関係を有しており、この関係に基づいてパーリ語からの借用語も書かれる。

𑄀	/k-/ (က)	𑄁	/kh-/ (ခ)	𑄂	/g-/ (ဂ)	𑄃	/x-/	𑄄	/ŋ-/ (င)
𑄅	/c-/ (စ)	𑄆	/ch-/ (ဆ)	𑄇	/z-/ (ဇ)	𑄈	/z-/ (ဇ)	𑄉	/p-/ (ပ)
𑄊	/p-/ (ပ)	𑄋	/ph-/ (ဖ)	𑄌	/b-/ (ဘ)	𑄍	/b-/ (ဘ)	𑄎	/m-/ (မ)
𑄏	/j-/ (ဇ)	𑄐	/c-/	𑄑	/t-/ (တ)	𑄒	/w-/ (ဝ)	𑄓	[F-]
𑄔	/n-/ (န)	𑄕	/th-/ (ထ)	𑄖	/d-/	𑄗	/d-/ (ဒ)	𑄘	/d-/ (ဓ)
𑄙	/θ-/ (ဆ)	𑄚	/b-/	𑄛	/t-/~/d-/ (ဇ)	𑄜	/m-/ (မ)	𑄝	/l-/ (လ)
𑄞	/h-/ (ဟ)	𑄟	/y-/	𑄠	/l-/ (လ)	𑄡	/th-/ (ဇ)	𑄢	/ñ-/
		𑄣	/r-/ (ဆ)	𑄤	/n-/ (ဏ)	𑄥	/t-/ (တ)		

■形が独特なので純粋なインド系文字と言い切れないまでも、上記のことから、レークエコーをインド系文字の亜種と見なしてよいだろう。このように、インド系文字の創生は二千年以上前から現代に続いているのである。

6. まとめ

- 東南アジアで使われている様々なインド系文字は、南インドのパッラヴァ朝で使われていた文字がもとになって発展したものである。
- インド系文字は、字母(子音文字)に様々な記号を付加することで音節を書き表すシステムを持つ。
- インド系文字の字母や様々な記号は互いに対応することが多い。ただし、各言語の音韻に合わせて加除は行われている。
- ビルマ語やタイ語には声調があるので、それを書き表すために文字体系が少々複雑になっている(声調があるシャン語、ラオ語、カレン諸語の文字も多かれ少なかれ複雑)。また、今回詳しくは見なかったが、モン語やクメール語も、頭子音の歴史的変化に起因する母音の変化のため、母音の読み方が非常に複雑になっている。
- インド系文字は二千年以上前のブラーフミー文字から変遷を続けてきた。その変遷はレークエコーの創生に見られるように現代においても続いている。



参考になる本

世界の文字研究会(編)『世界の文字の図典』東京: 吉川弘文館、1993年

町田和彦(編)『華麗なるインド系文字』東京: 白水社、2001年

河野六郎・千野栄一・西田龍雄(編)『言語学大辞典別巻【世界文字辞典】』東京: 三省堂、2001年

「アジア文字曼陀羅～インド系文字の旅」実行委員会(編)『「アジア文字曼陀羅～インド系文字の旅」ガイドブック』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2002年(第2版)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(編)『図説 アジア文字入門』東京: 河出書房新社、2005年

矢島文夫(総監訳)『世界の文字大事典』東京: 朝倉書店、2013年

庄司博史(編)『世界の文字事典』東京: 丸善出版、2015年

ご清聴ありがとうございました。

